

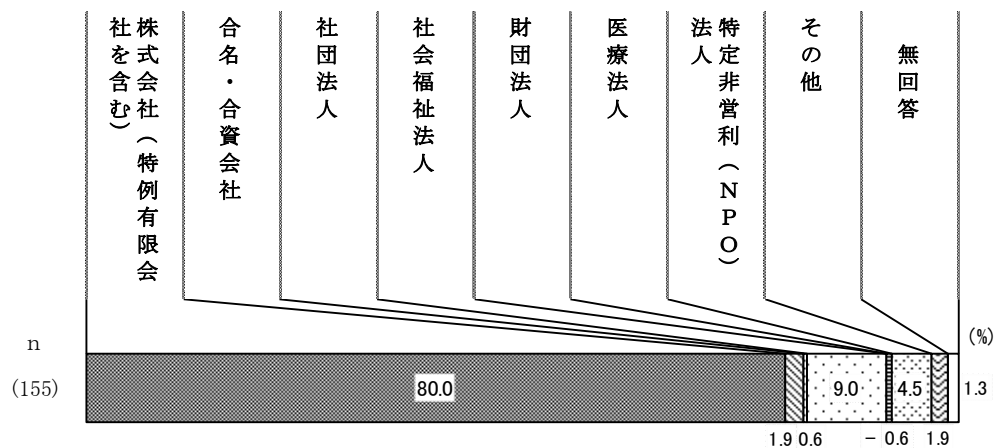
2-5 ケアマネジャー調査

(1) 事業所の概要について

①事業所の組織(法人格)

問1 あなたの所属する事業所の組織(法人格)は、次のうちどれですか。(1つに○)

<図表304> 事業所の組織(法人格)

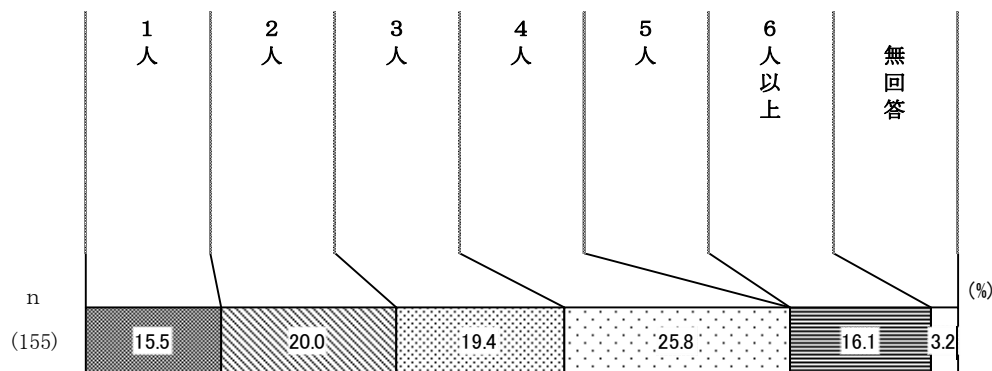


事業所の組織(法人格)についてたずねたところ、「株式会社(特例有限会社を含む)」(80.0%)が8割となっている。

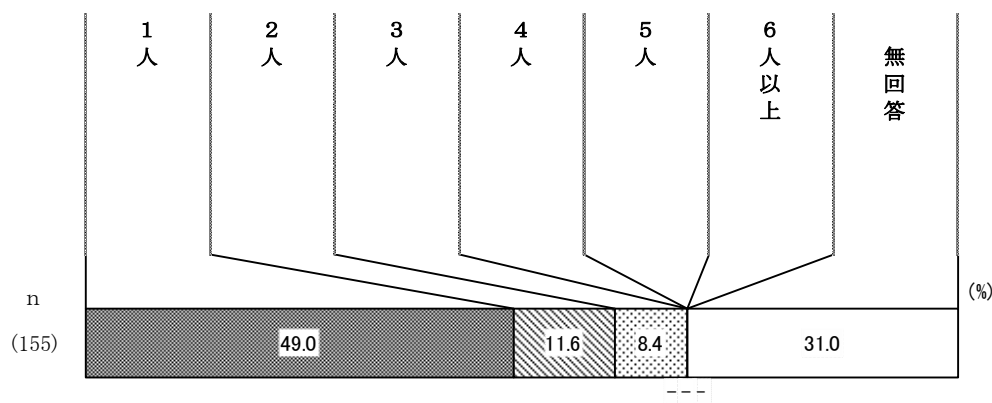
②居宅介護支援事業所のケアマネジャーの人数

問2 あなたの居宅介護支援事業所のケアマネジャーは、あなたも含めて何人ですか。そのうち、主任ケアマネジャーは何人ですか。
 ※ 勤務形態等を問わず、実人数を記入してください。

<図表305> 居宅介護支援事業所のケアマネジャーの人数



<図表306> 主任ケアマネジャーの人数



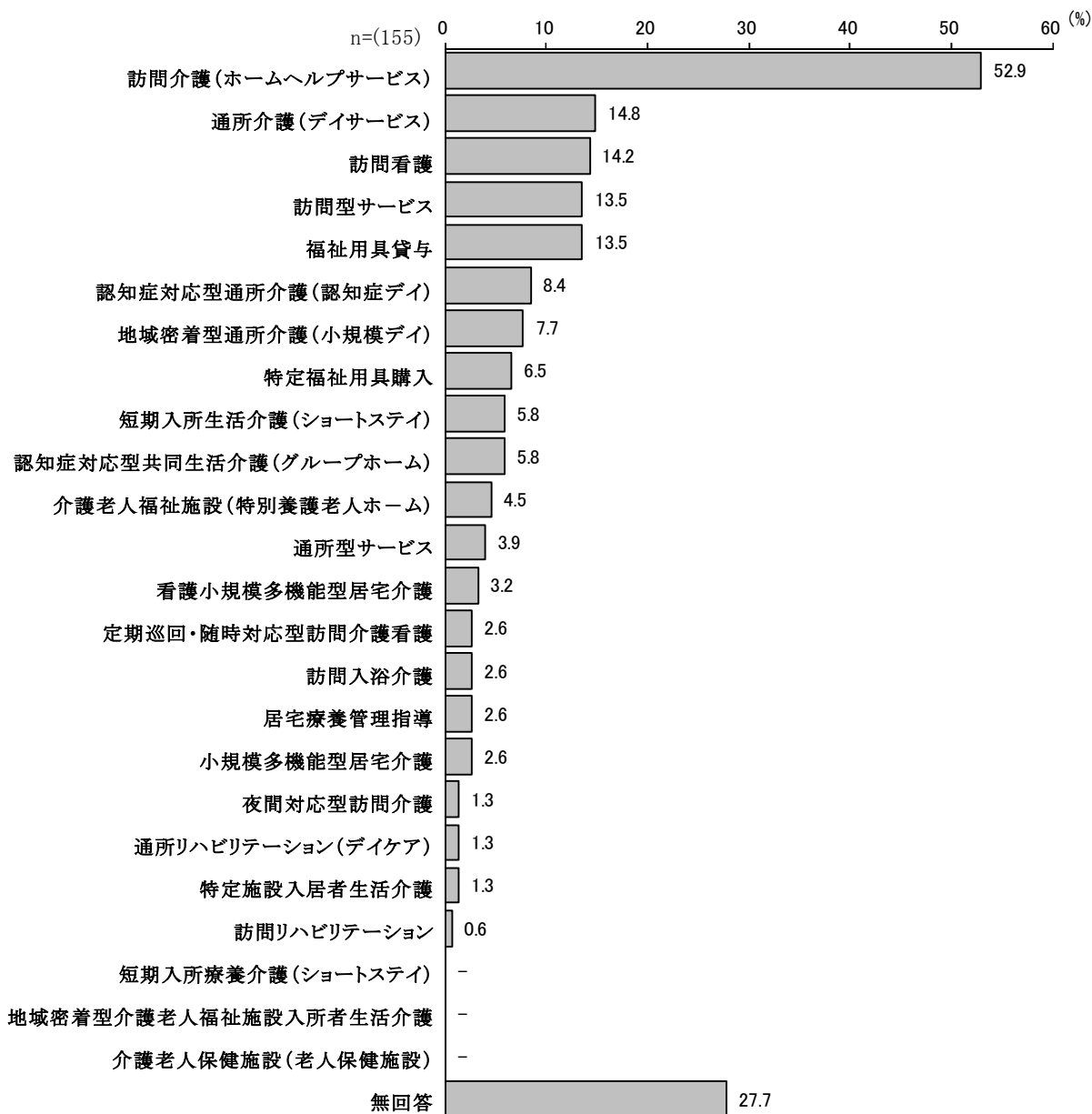
居宅介護支援事業所のケアマネジャーの人数についてたずねたところ、「4人」(25.8%)が2割台半ば、「2人」(20.0%)が2割となっている。

主任ケアマネジャーの人数についてたずねたところ、「1人」(49.0%)が5割弱となっている。

③運営しているサービス内容

問3 あなたの所属する事業所が、居宅介護支援事業の他に提供しているサービスは、どれですか。(あてはまるものすべてに○)
 ※下記サービスには介護予防も含めてお答えください。

<図表307> 運営しているサービス内容 (複数回答)



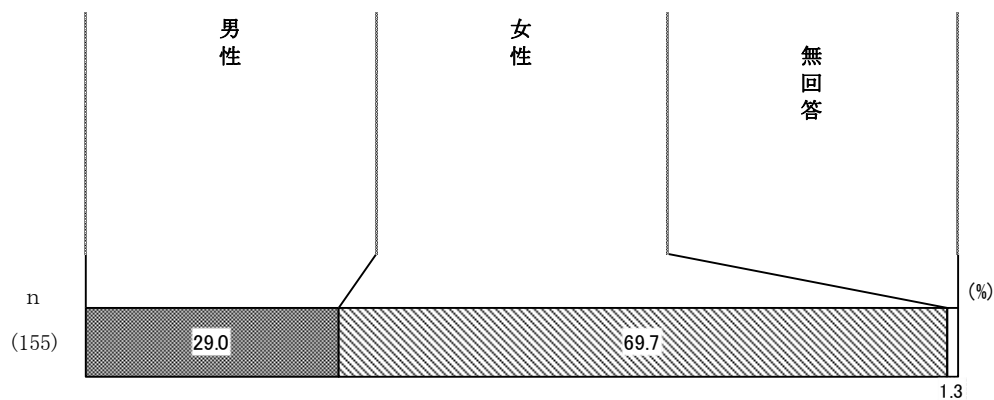
運営しているサービス内容についてたずねたところ、「訪問介護 (ホームヘルプサービス)」(52.9%)が5割強と最も高く、次いで、「通所介護 (デイサービス)」(14.8%)、「訪問看護」(14.2%)の順となっている。

(2) あなたご自身のことについて

①性別

問4 あなたの性別をお選びください。(1つに○)

<図表308> 性別

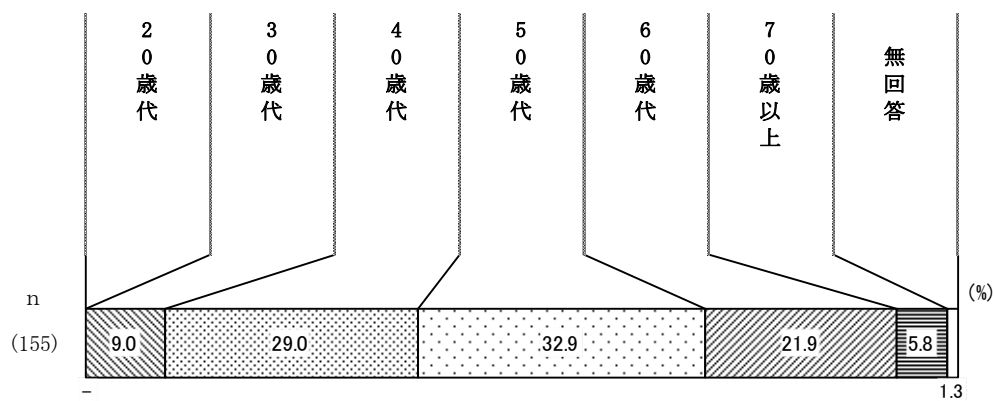


ケアマネジャーの性別についてたずねたところ、「女性」(69.7%)が7割弱となっている。

②年齢

問5 あなたの年齢をお選びください。(1つに○)

<図表309> 年齢

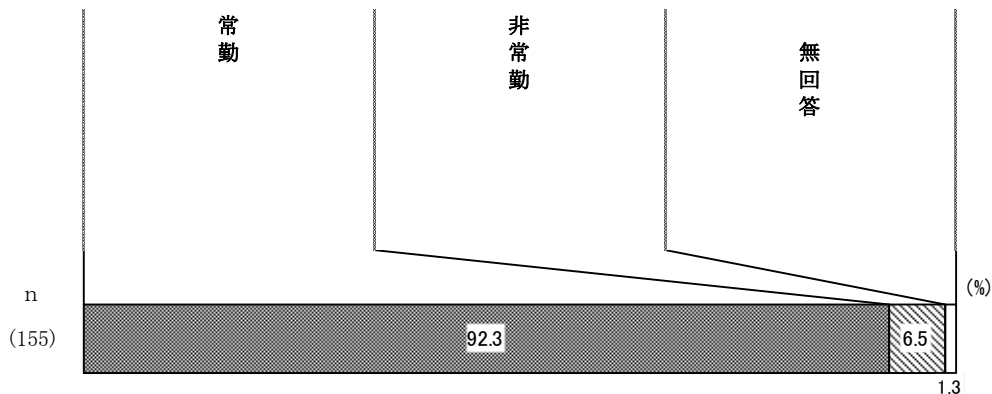


ケアマネジャーの年齢についてたずねたところ、「50歳代」(32.9%)が3割強となっている。

③勤務形態

問6 あなたの勤務形態をお選びください。(1つに○)

<図表310> 勤務形態

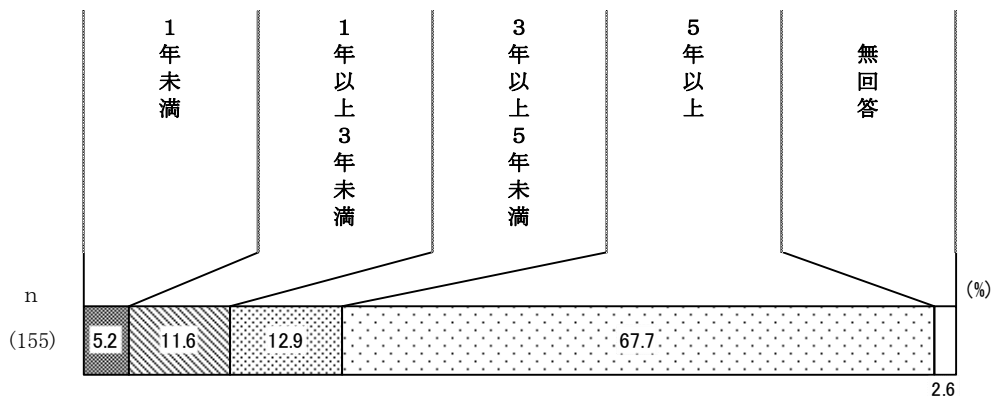


ケアマネジャーの勤務形態についてたずねたところ、「常勤」(92.3%)が9割強となっており、「非常勤」(6.5%)は1割未満となっている。

④経験年数

問7 あなたのケアマネジャーの経験年数をお選びください。※他事業所での年数も含む(1つに○)

<図表311> 経験年数

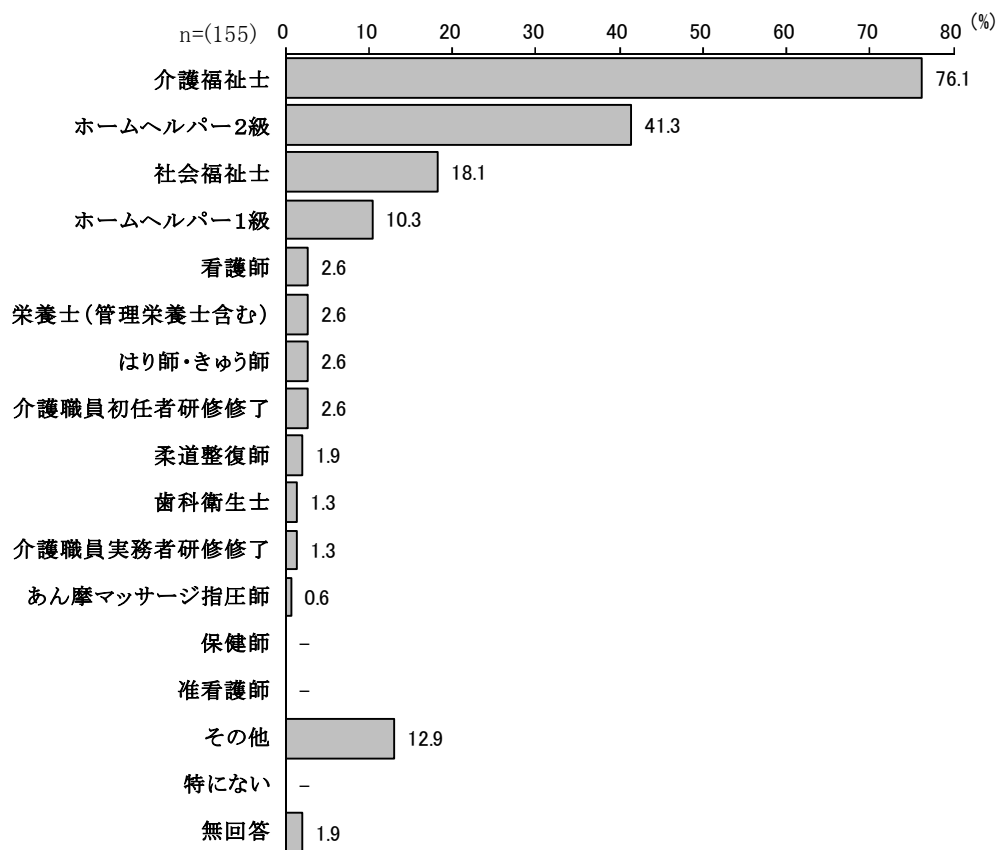


ケアマネジャーの経験年数についてたずねたところ、「5年以上」(67.7%)が6割台半ばを超えて最も高くなっている。

⑤介護支援専門員以外に所有している資格

問8 あなたは、介護支援専門員以外にどのような資格をお持ちですか。
(あてはまるものすべてに○)

<図表312> 介護支援専門員以外に所有している資格 (複数回答)



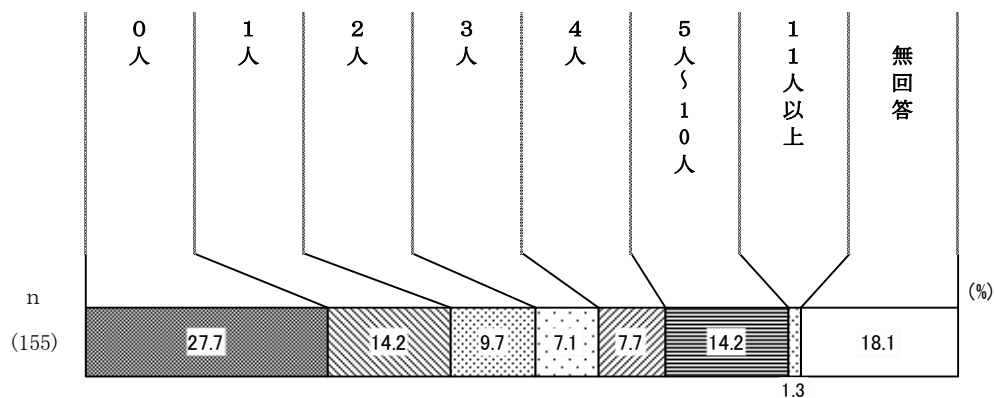
介護支援専門員以外に所有している資格についてたずねたところ、「介護福祉士」(76.1%)が7割台半ばを超えて最も高く、次いで、「ホームヘルパー2級」(41.3%)、「社会福祉士」(18.1%)の順となっている。

(3) ケアマネジメントの状況について

①担当している人数

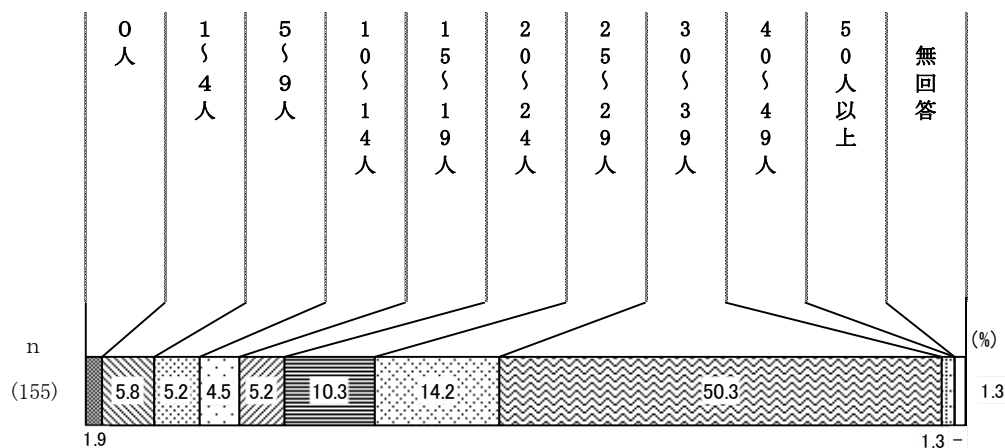
問9 あなたが9月1日現在、担当している人数を教えてください。

<図表313> 担当している予防支援者数



担当している予防支援者数についてたずねたところ、「0人」(27.7%)が2割台半ばを超えて最も高く、次いで、「1人」(14.2%)、「5人～10人」(14.2%)となっている。

<図表314> 担当している介護支援者数

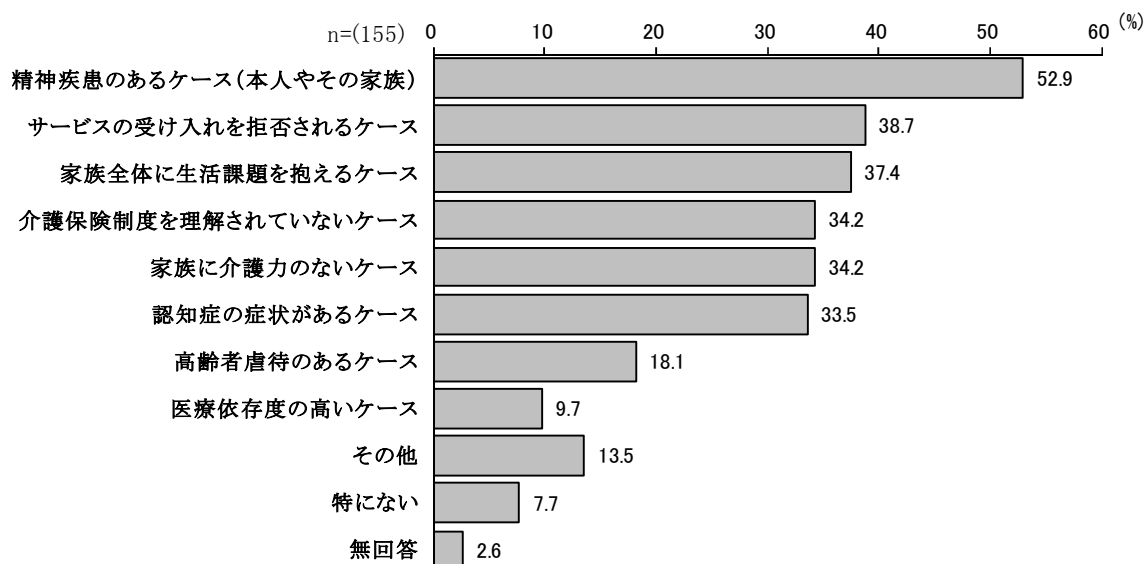


担当している介護支援者数についてたずねたところ、「30～39人」(50.3%)が約5割と最も高くなっている。

②過去1年間で、支援困難と感じたケース

問10 過去1年間で、あなたが支援困難と感じたケースは、次のうちどれですか。
(あてはまるものすべてに○)

<図表315> 過去1年間で、支援困難と感じたケース (複数回答)

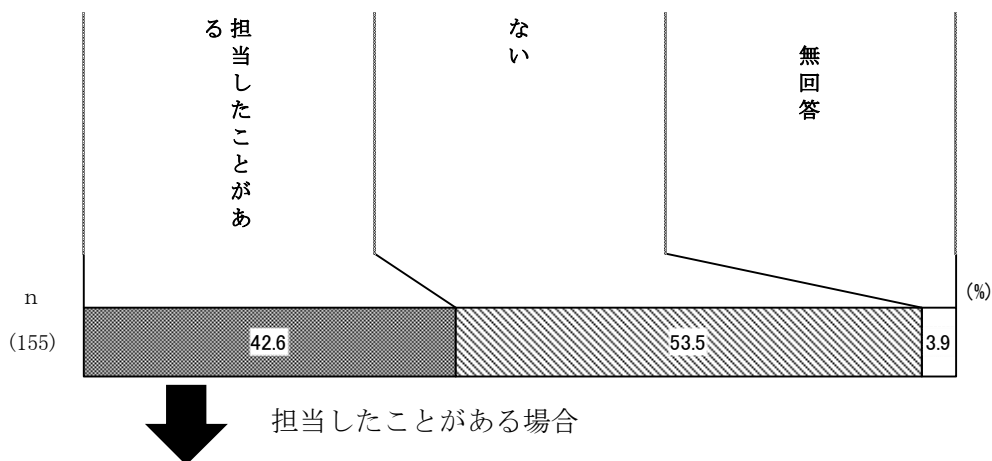


過去1年間で、支援困難と感じたケースについてたずねたところ、「精神疾患のあるケース(本人やその家族)」(52.9%)が5割強で最も高く、次いで、「サービスの受け入れを拒否されるケース」(38.7%)、「家族全体に生活課題を抱えるケース」(37.4%)の順となっている。

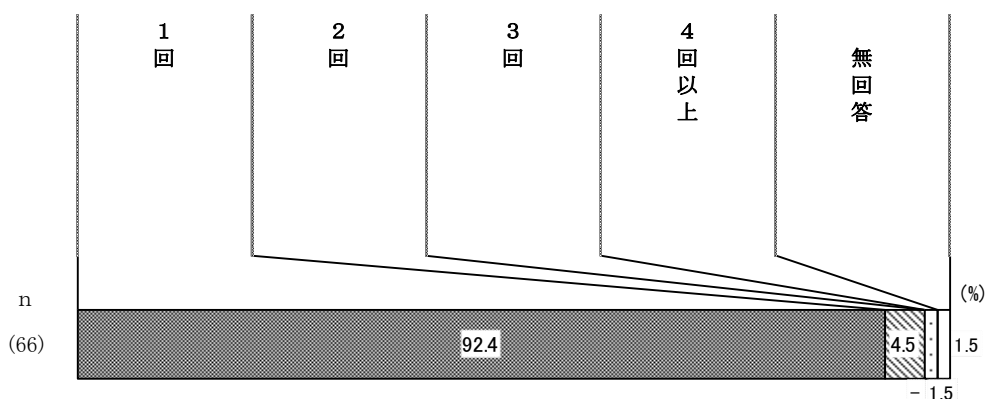
③過去1年間で、虐待につながる可能性のあるケースを担当した経験及び回数

問11 あなたは、過去1年間で、虐待に繋がる可能性のあるケースを担当したことがありますか。なお、ある場合は、回数をご記入ください。

<図表316> 過去1年間で、虐待につながる可能性のあるケースを担当したことの有無



<図表317> 過去1年間で、虐待につながる可能性のあるケースを担当した回数



過去1年間で、虐待につながる可能性のあるケースを担当したことの有無についてたずねたところ、「担当したことがある」(42.6%)は4割強となっている。

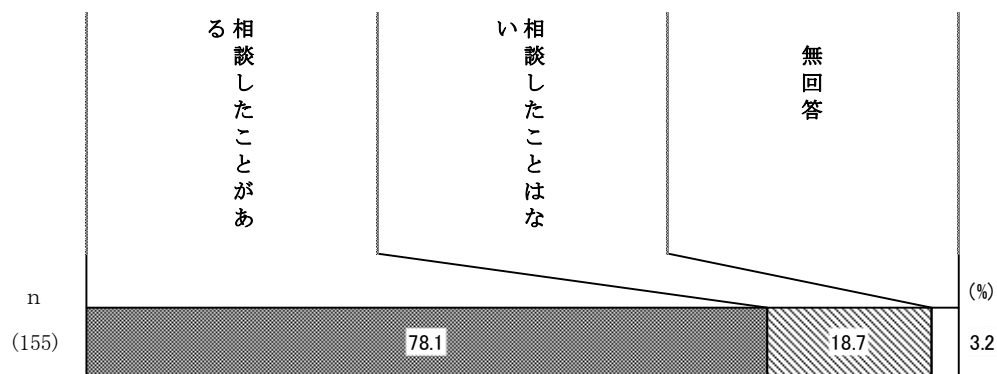
過去1年間で、虐待につながる可能性のあるケースを担当した回数についてたずねたところ、「1回」(92.4%)が9割強となっている。

(4) 高齢者総合相談センターのケアマネジャーへの支援について

①過去1年間の高齢者総合相談センターの相談状況

問12 過去1年間で、あなたは、利用者に関して高齢者総合相談センターへ相談したことがありますか。(1つに○)

<図表318> 過去1年間の高齢者総合相談センターの相談状況

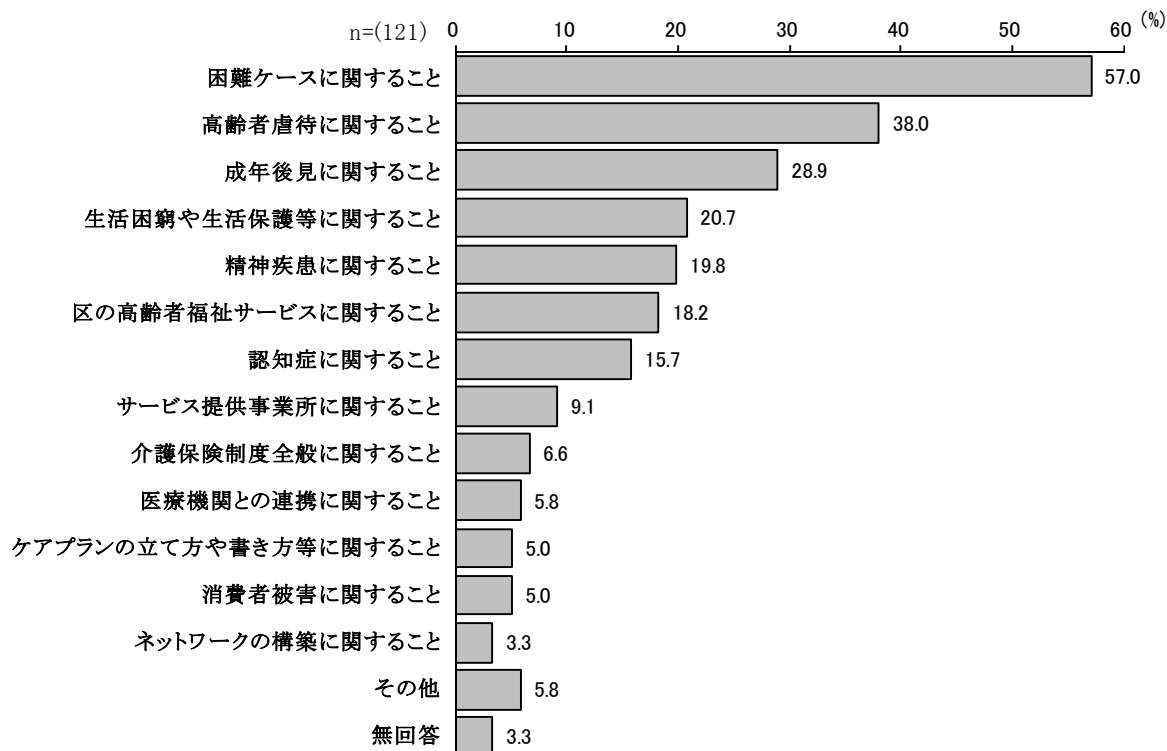


過去1年間の高齢者総合相談センターの相談状況についてたずねたところ、「相談したことがある」(78.1%)は8割弱となっている。

②高齢者総合相談センターに相談した分野

問12-1 ≪問12で「相談したことがある」を選んだ方のみお答えください≫
 相談した分野は、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表319> 高齢者総合相談センターに相談した分野（複数回答）

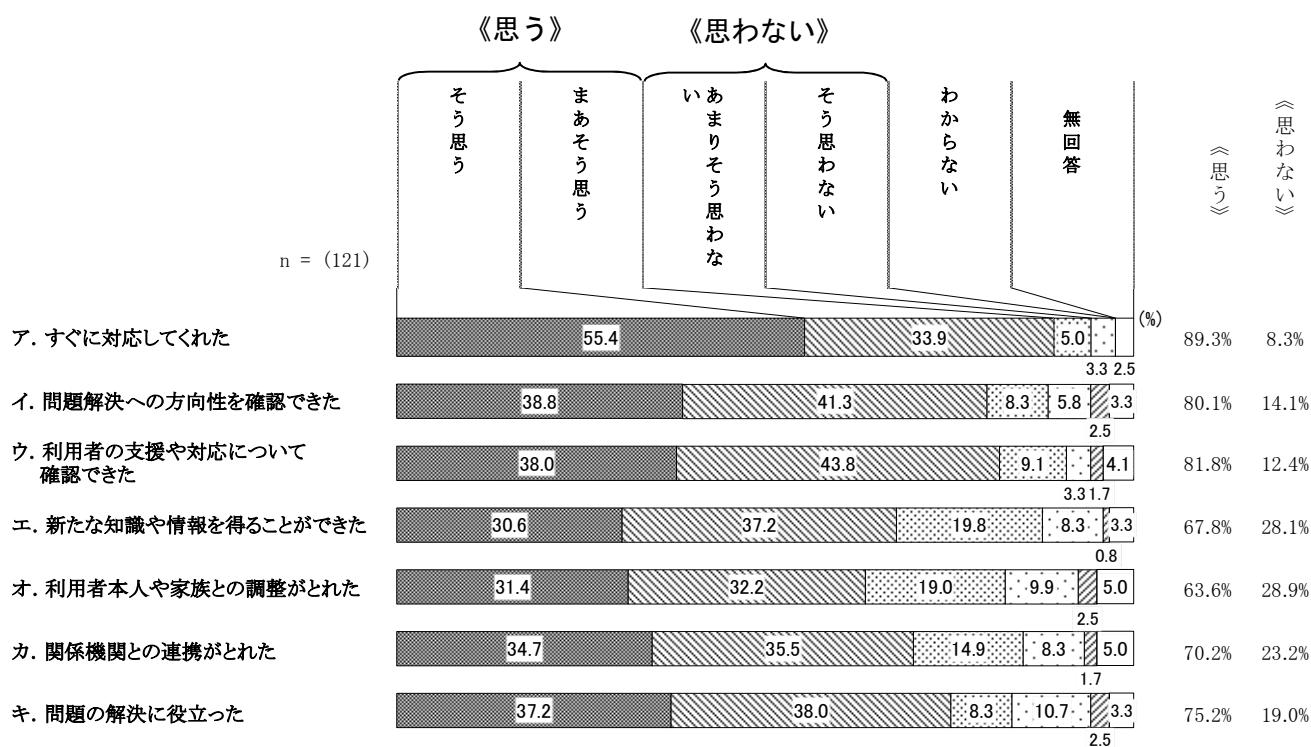


問12で高齢者総合相談センターに「相談したことがある」と回答した人に、相談した分野についてたずねたところ、「困難ケースに関する事」(57.0%)が5割台半ばを超えて最も高く、次いで、「高齢者虐待に関する事」(38.0%)、「成年後見に関する事」(28.9%)の順となっている。

③高齢者総合相談センターに対する評価

問12-2 《問12で「相談したことがある」を選んだ方のみお答えください》
 高齢者総合相談センターへ相談した際の全般的な評価は、次のうちどれですか。
 (それぞれ1つに○)

<図表320> 高齢者総合相談センターに対する評価



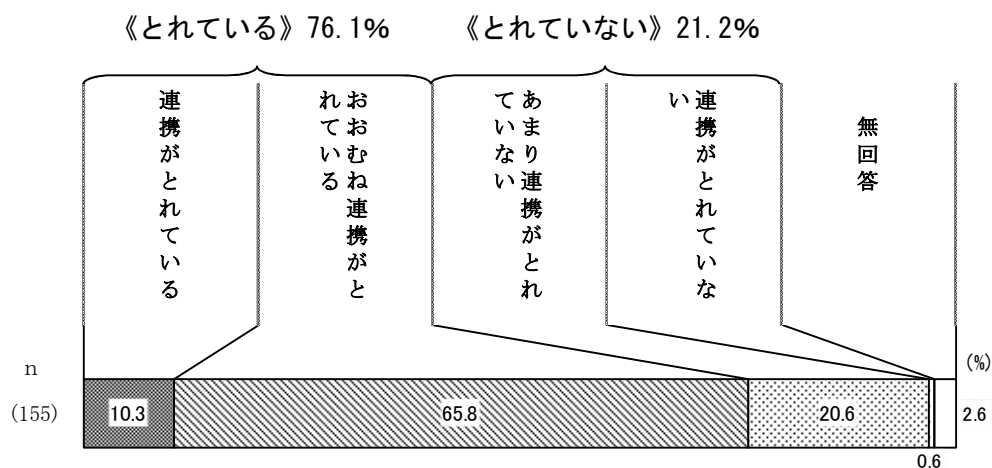
問12で高齢者総合相談センターに「相談したことがある」と回答した人に、高齢者総合相談センターに対する評価についてたずねたところ、「そう思う」と「まあそう思う」をあわせた《思う》は、【ア. すぐに対応してくれた】(89.3%)で9割弱と最も高く、次いで【ウ. 利用者の支援や対応について確認できた】(81.8%)、【イ. 問題解決への方向性を確認できた】(80.1%)の順となっている。

(5) 各種連携の状況について

①主治医との連携状況

問13 あなたはケアマネジャーとして、主治医（かかりつけ診療所・クリニック）との連携はとれていますか。（1つに○）

<図表321> 主治医との連携状況

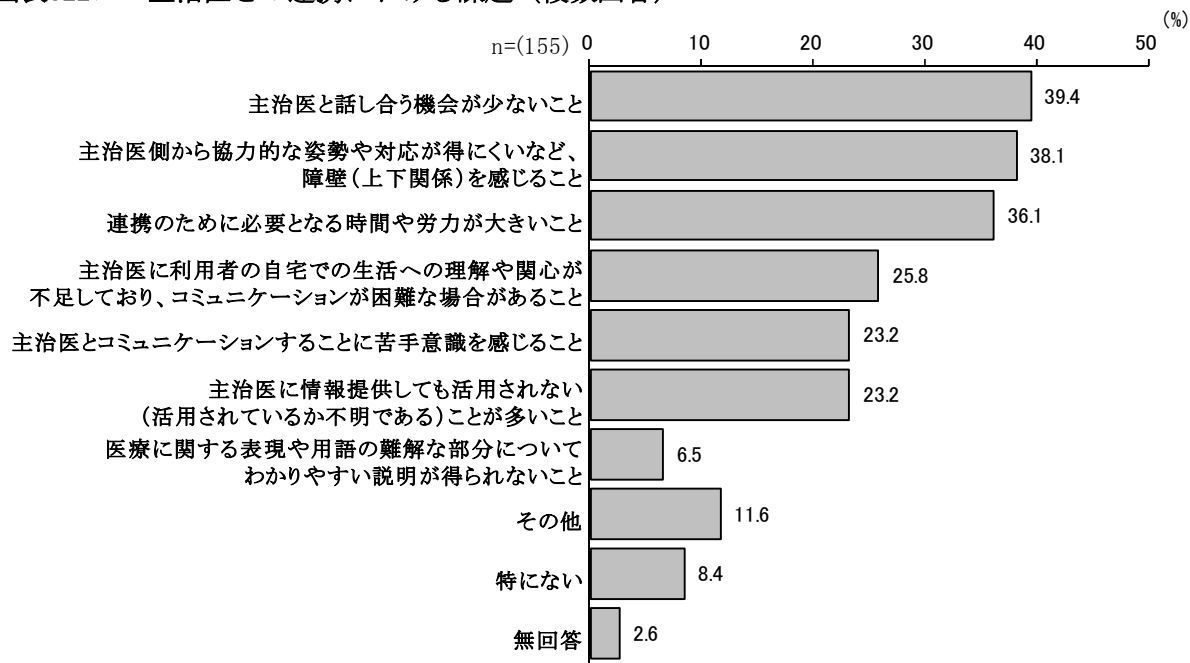


主治医との連携状況についてたずねたところ、「連携がとれている」（10.3%）と「おおむね連携がとれている」（65.8%）をあわせた《とれている》（76.1%）が7割台半ばを超えている。

②主治医との連携における課題

問14 あなた自身の、主治医（かかりつけ診療所・クリニック）との連携における課題は何だと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

<図表322> 主治医との連携における課題（複数回答）

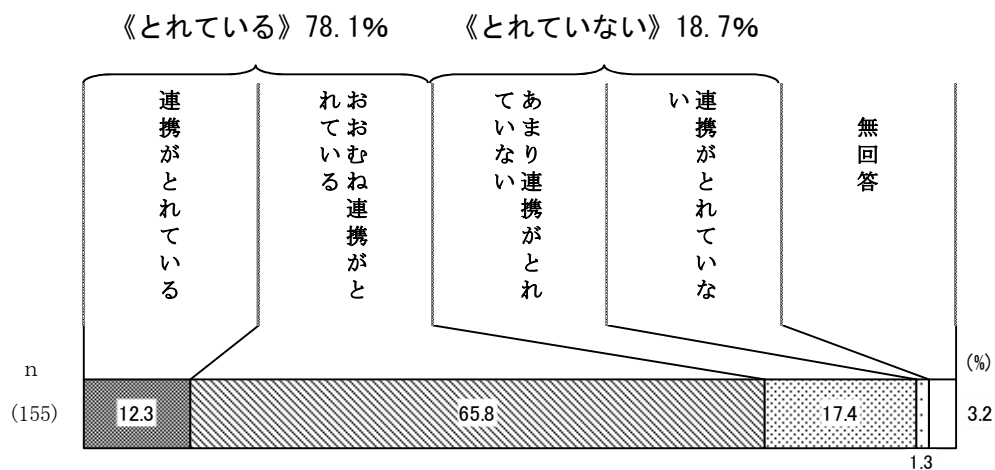


主治医との連携における課題についてたずねたところ、「主治医と話し合う機会が少ないこと」(39.4%)が4割弱で最も高く、次いで、「主治医側から協力的な姿勢や対応が得にくいなど、障壁(上下関係)を感じる」(38.1%)、「連携のために必要となる時間や労力が大きいこと」(36.1%)の順となっている。

③病院との連携状況

問15 あなたはケアマネジャーとして、病院（医師、看護師、医療ソーシャルワーカー等）との連携状況について、どのように思いますか。（1つに○）

<図表323> 病院との連携状況

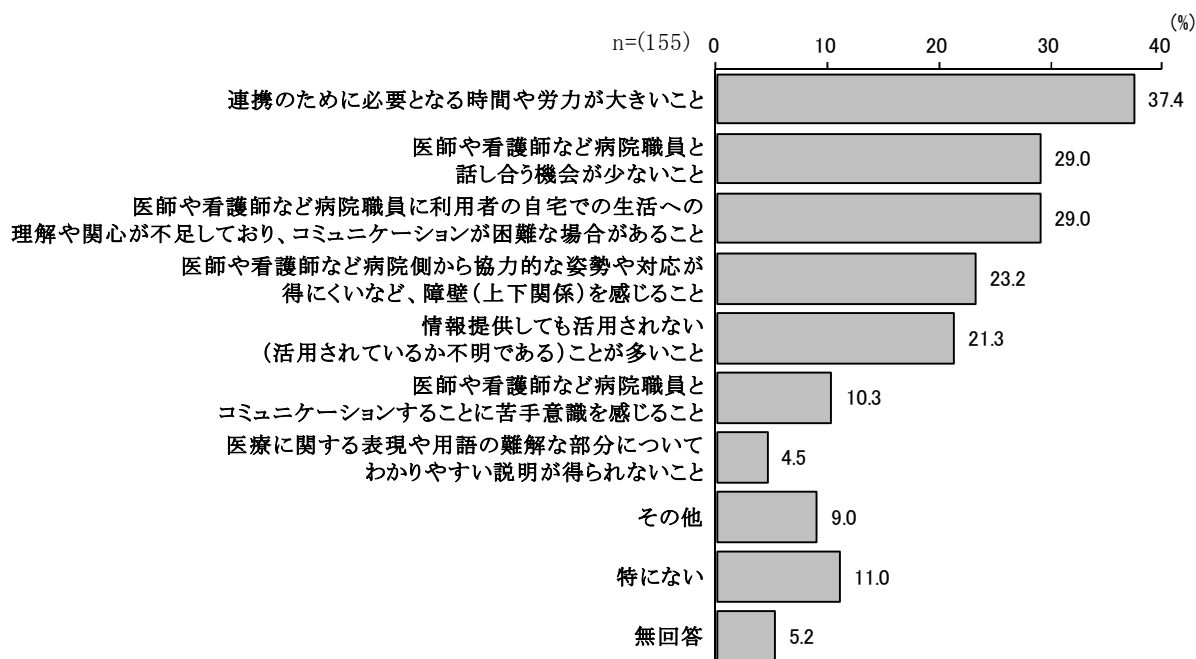


病院との連携状況についてたずねたところ、「連携がとれている」（12.3%）と「おおむね連携がとれている」（65.8%）をあわせた《とれている》（78.1%）が8割近くとなっている。

④病院との連携における課題

問16 あなた自身の、病院（医師、看護師、医療ソーシャルワーカー等）との連携における課題は何だと思えますか。（あてはまるものすべてに○）

<図表324> 病院との連携における課題（複数回答）

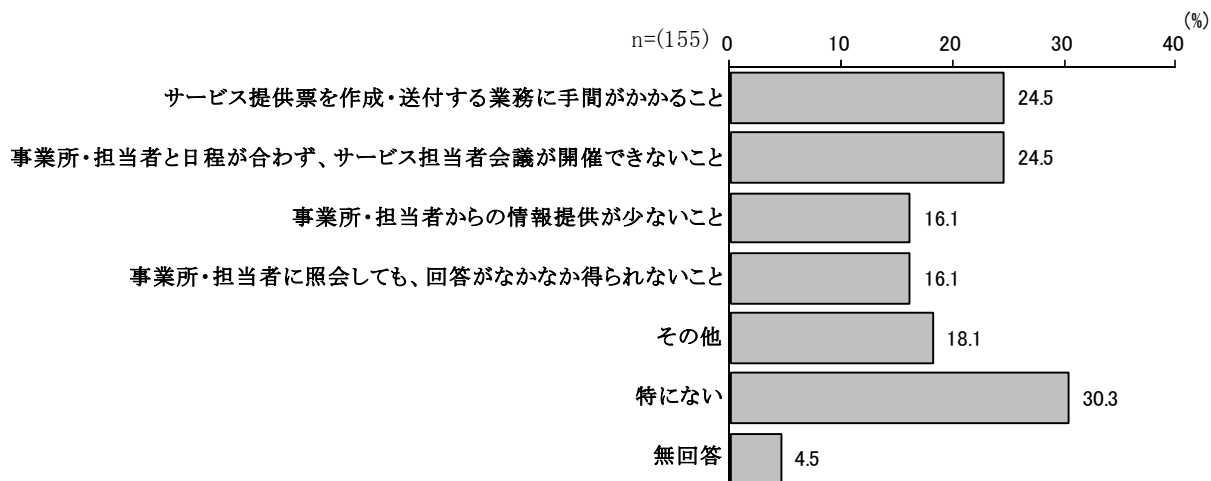


病院との連携における課題についてたずねたところ、「連携のために必要となる時間や労力が大きいこと」(37.4%)が3割半ばを超えて最も高く、次いで、「医師や看護師など病院職員と話し合う機会が少ないこと」及び「医師や看護師など病院職員に利用者の自宅での生活への理解や関心が不足しており、コミュニケーションが困難な場合があること」(ともに29.0%)の順となっている。

⑤介護保険サービス事業所との連携における課題

問17 あなた自身の、介護保険サービス事業所との連携における課題は何だと思えますか。
 (あてはまるものすべてに○)

<図表325> 介護保険サービス事業所との連携における課題 (複数回答)

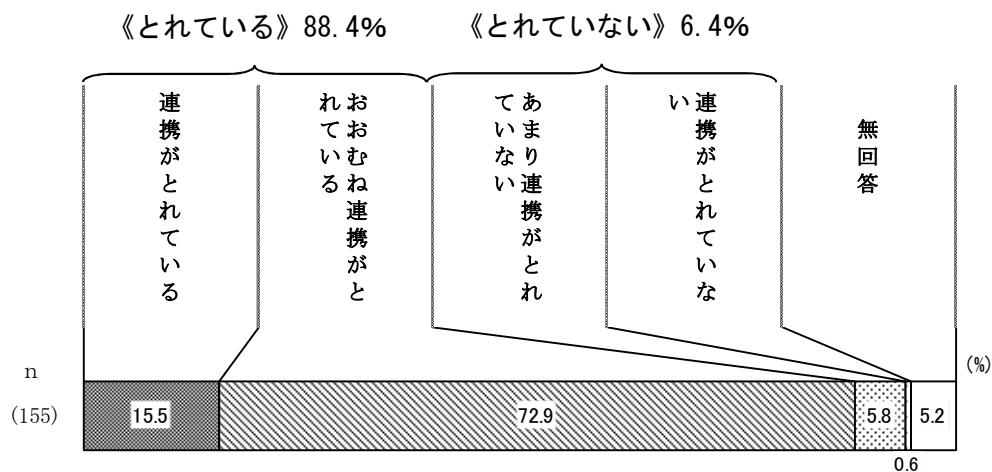


介護保険サービス事業所との連携における課題についてたずねたところ、「サービス提供票を作成・送付する業務に手間がかかること」及び「事業所・担当者と日程が合わず、サービス担当者会議が開催できないこと」(ともに24.5%)が2割台半ば近くで最も高くなっている。一方、「特にない」は30.3%であった。

⑥在宅医療・介護連携の状況

問18 あなたからみて、新宿区内の在宅医療・介護連携の状況について、どのように思いますか。(1つに○)

<図表326> 在宅医療・介護連携の状況

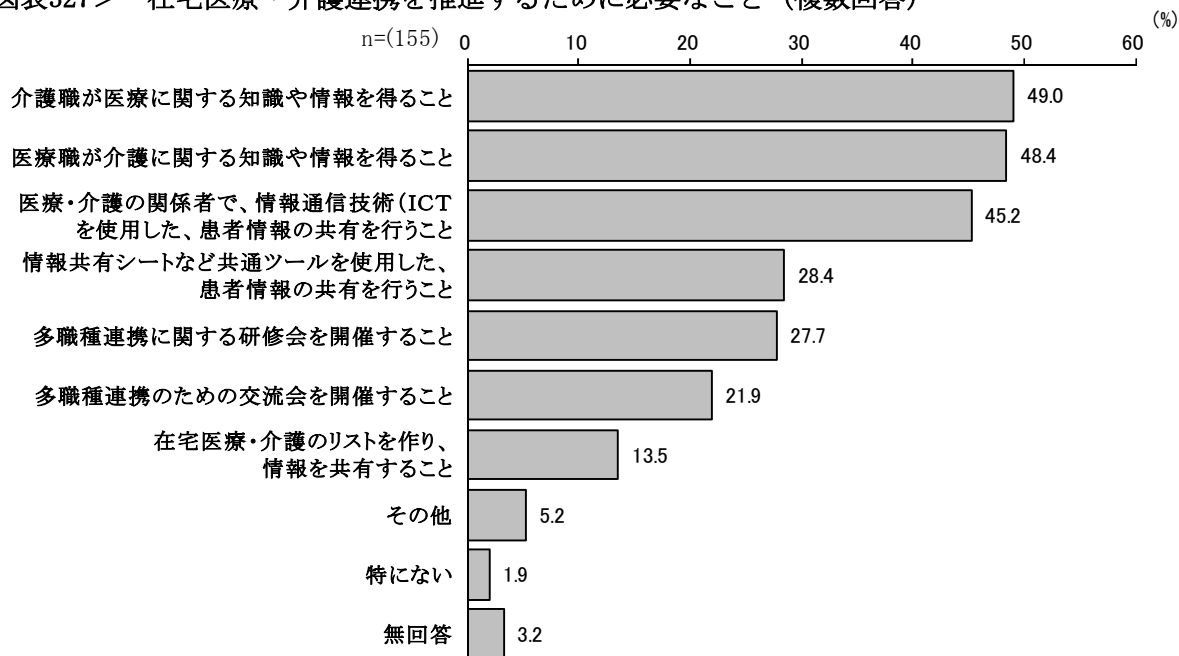


在宅医療・介護連携の状況についてたずねたところ、「連携がとれている」(15.5%)と「おおむね連携がとれている」(72.9%)をあわせた《とれている》(88.4%)が9割近くとなっている。

⑦在宅医療・介護連携を推進するために必要なこと

問19 あなたからみて、新宿区内の在宅医療・介護連携を推進するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表327> 在宅医療・介護連携を推進するために必要なこと（複数回答）

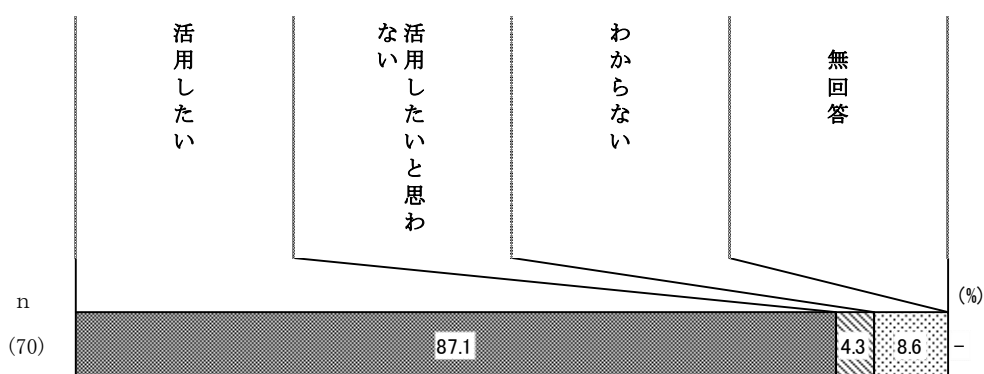


在宅医療・介護連携を推進するために必要なことについてたずねたところ、「介護職が医療に関する知識や情報を得ること」(49.0%)が5割近くで最も高く、次いで、「医療職が介護に関する知識や情報を得ること」(48.4%)、「医療・介護の関係者で、情報通信技術 (ICT) を使用した、患者情報の共有を行うこと」(45.2%)の順となっている。一方、「特にない」は1.9%であった。

⑧患者情報の共有のためにICTを活用すること

問19-1 <<問19で「医療・介護の関係者で、情報通信技術(ICT)を使用した、患者情報の共有を行うこと」を選んだ方のみお答えください>>
 多職種で患者情報の共有を行うためにICTを活用することについて、どのように考えますか。(1つに〇)

<図表328> 患者情報の共有のためにICTを活用すること(複数回答)



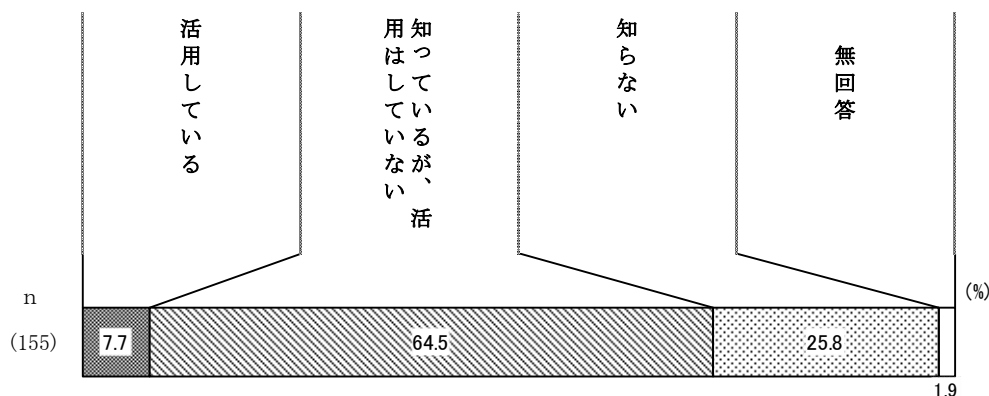
問19で「医療・介護の関係者で、情報通信技術(ICT)を使用した患者情報の共有を行うこと」と回答した人に、患者情報の共有を行うためにICTを活用することについてたずねたところ、「活用したい」(87.1%)が8割台半ばを超えて最も高く、次いで、「わからない」(8.6%)、「活用したいと思わない」(4.3%)の順となっている。

(6) 在宅医療への対応について

①在宅医療相談窓口の活用状況

問20 あなたは、区の「在宅医療相談窓口」で、在宅療養に関する医療を中心とした相談が受けられるということをご存じですか。(1つに○)

<図表329> 在宅医療相談窓口の活用状況



在宅医療相談窓口の活用状況についてたずねたところ、「知っているが活用はしていない」(64.5%)は6割台半ば近くとなっている。

②在宅医療相談窓口で活用していることや期待していること

問20-1 <<問20で「活用している」を選んだ方のみお答えください>>

「在宅医療相談窓口」で活用していることや期待することがあれば、ご自由にお書きください。

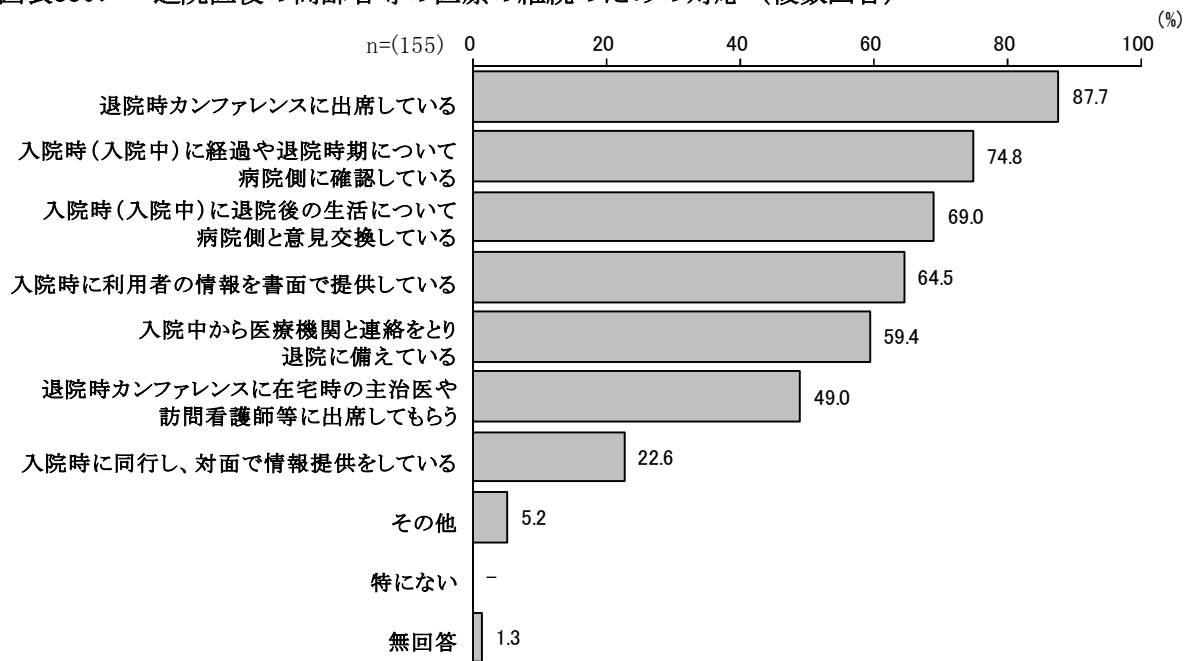
問20で「活用している」と回答した人に、「在宅医療相談窓口」で活用していることや期待することについてたずねたところ、以下のような回答があった。回答の中からいくつかを示す。

- ・ 情報提供・相談体制が充実している。
- ・ 病院等との連携体制。

③退院直後の高齢者等の医療の継続のための対応

問21 あなたは、利用者が入院しているときの病院との連携について、入院時、退院が決まったとき、退院直後の高齢者等の医療の継続のためにどのように対応していますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表330> 退院直後の高齢者等の医療の継続のための対応 (複数回答)



退院直後の高齢者等の医療の継続のための対応についてたずねたところ、「退院時カンファレンスに出席している」(87.7%)が8割台半ばを超えて最も高く、次いで、「入院時(入院中)に経過や退院時期について病院側に確認している」(74.8%)、「入院時(入院中)に退院後の生活について病院側と意見交換している」(69.0%)の順となっている。

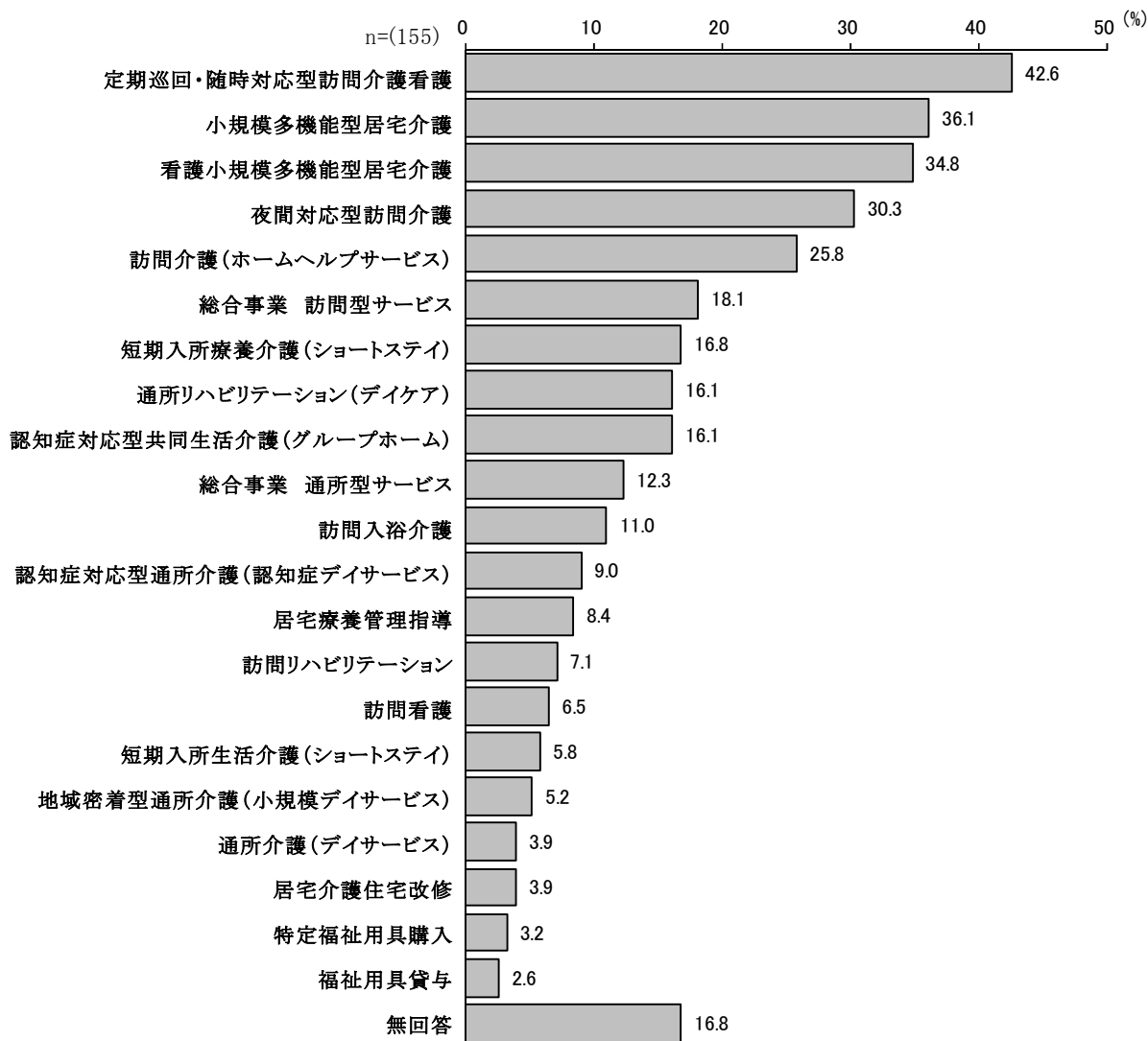
(7) ケアプランへの組み込みについて

①ケアプランの作成にあたって、組み込みにくいと思うサービスとその理由

問22 あなたは、ケアプランの作成にあたって、(ア) 組み込みにくいと思う介護保険のサービスはありますか。ある場合は、(イ) その理由をお答えください。

(ア) ケアプランの作成にあたって、組み込みにくいと思う介護保険サービス

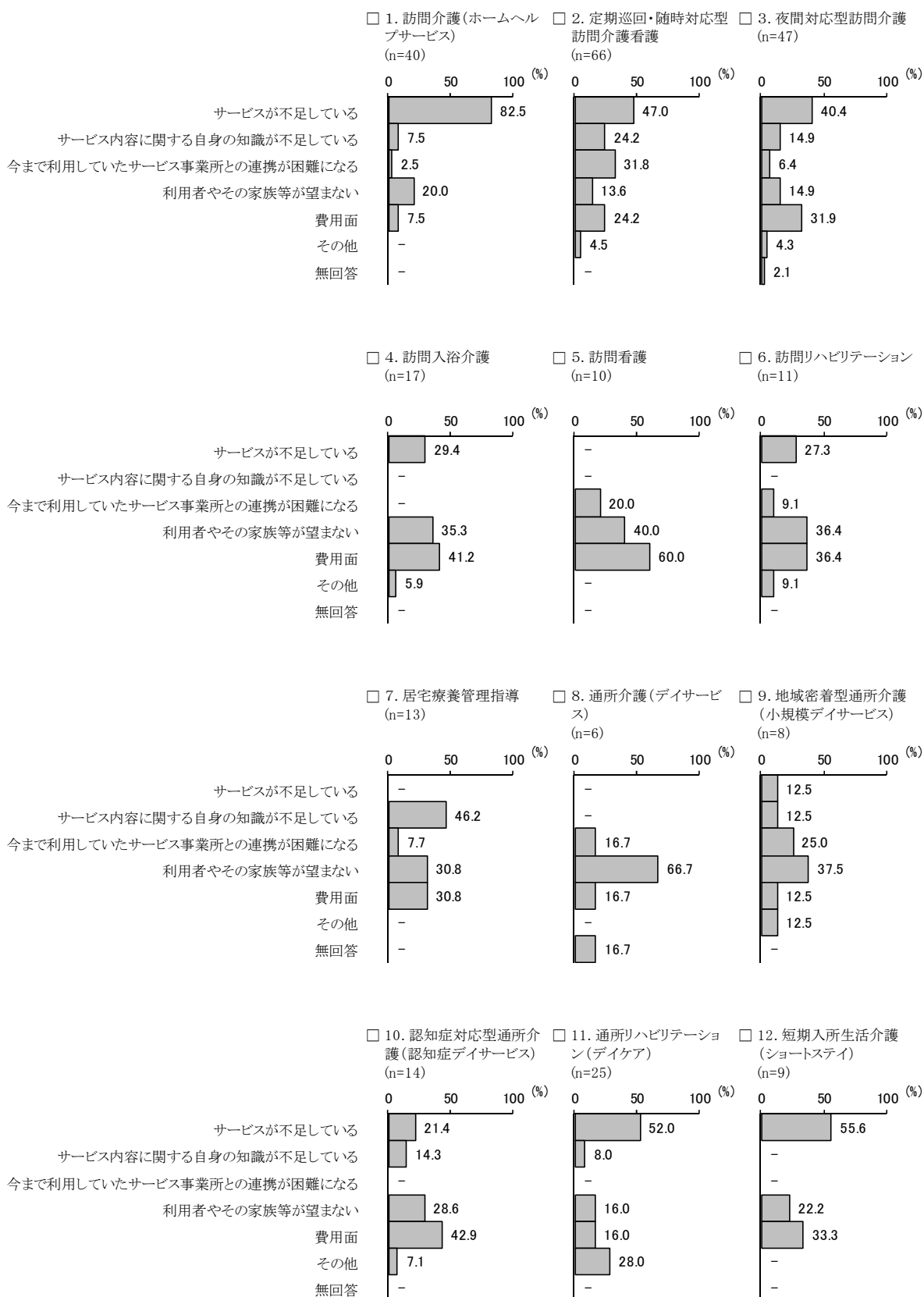
<図表331> ケアプランの作成にあたって、組み込みにくいと思う介護保険サービス (複数回答)



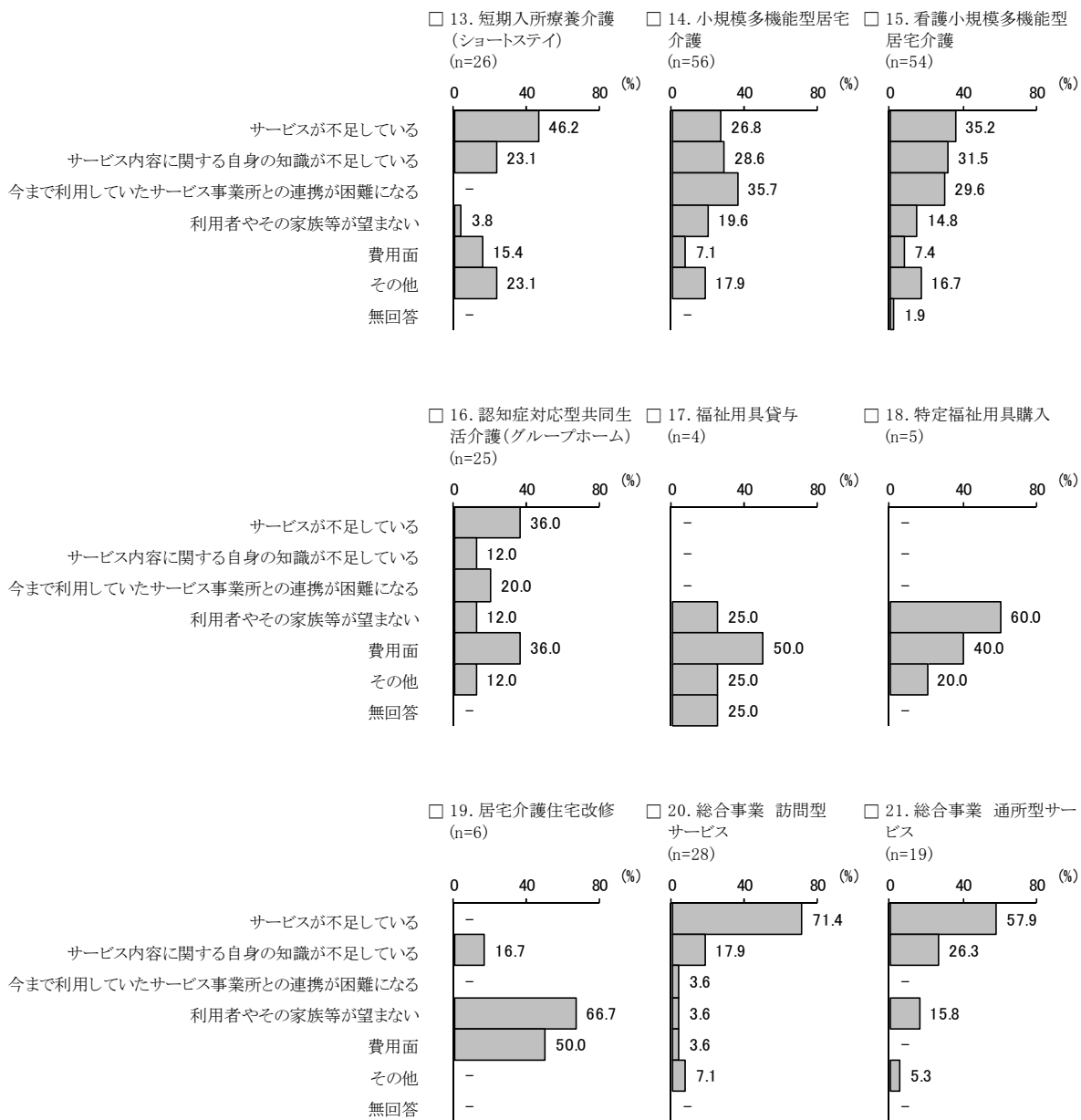
ケアプランの作成にあたって、組み込みにくいと思うサービスについてたずねたところ、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」(42.6%)が4割強で最も高く、次いで、「小規模多機能型居宅介護」(36.1%)、「看護小規模多機能型居宅介護」(34.8%)の順となっている。

(イ)ケアプランの作成にあたって、組み込みにくいと思う理由

<図表332> ケアプランの作成にあたって、組み込みにくいと思う理由（複数回答）



(次ページに続く)

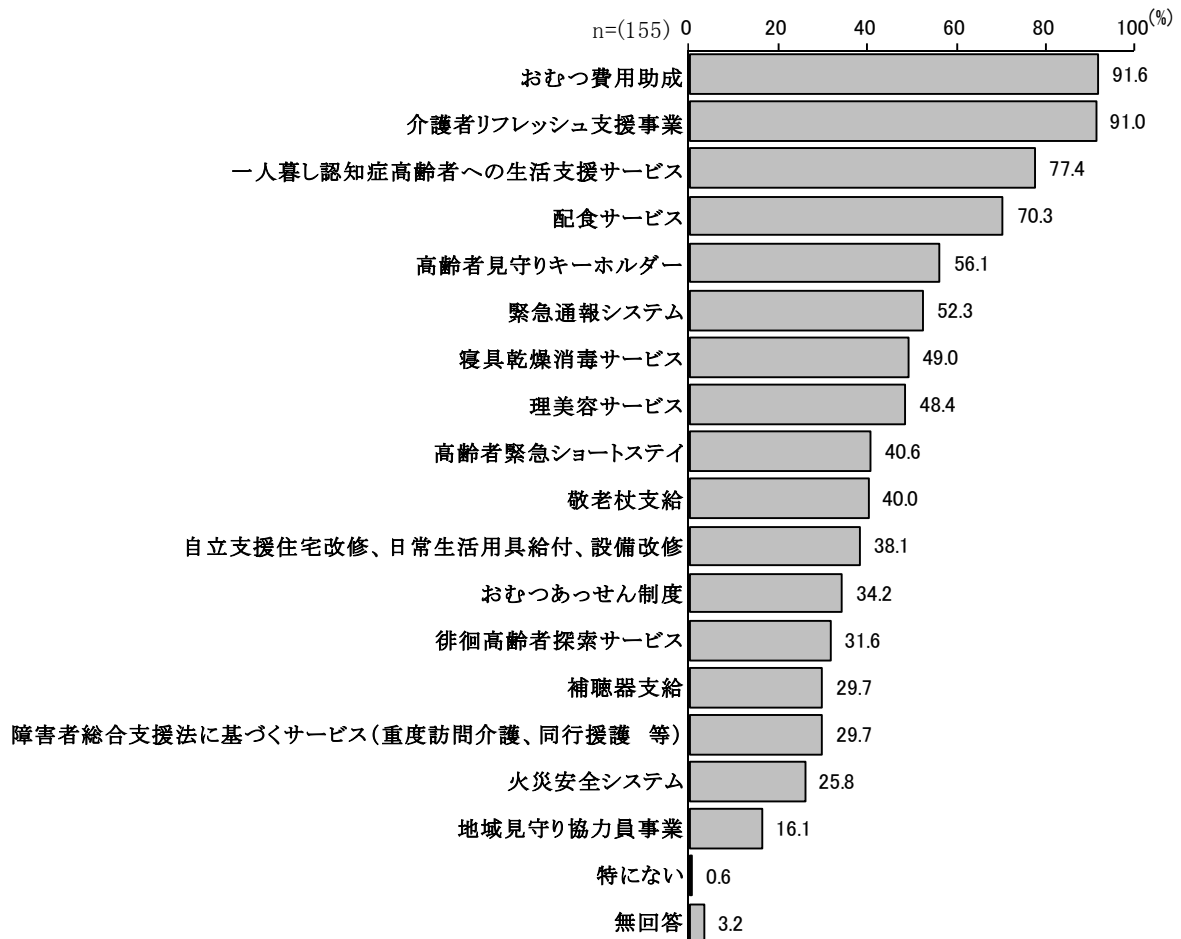


ケアプランの作成にあたって、組み込みにくいと思う理由についてたずねたところ、定期巡回・随時対応型訪問介護看護の場合、「サービスが不足している」(47.0%)が4割台半ばを超えて最も高くなっている。また、小規模多機能型居宅介護は「今まで利用していたサービス事業所との連携が困難になる」(35.7%)、看護小規模多機能型居宅介護は、「サービスが不足している」(35.2%)が最も高くなっている。

②ケアプラン作成時に検討する介護保険以外の高齢者福祉サービス

問23 区などが提供している介護保険外の高齢者福祉サービス等で、あなたがケアプランの作成にあたり、検討するものは、次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

<図表333> ケアプラン作成時に検討する介護保険以外の高齢者福祉サービス (複数回答)



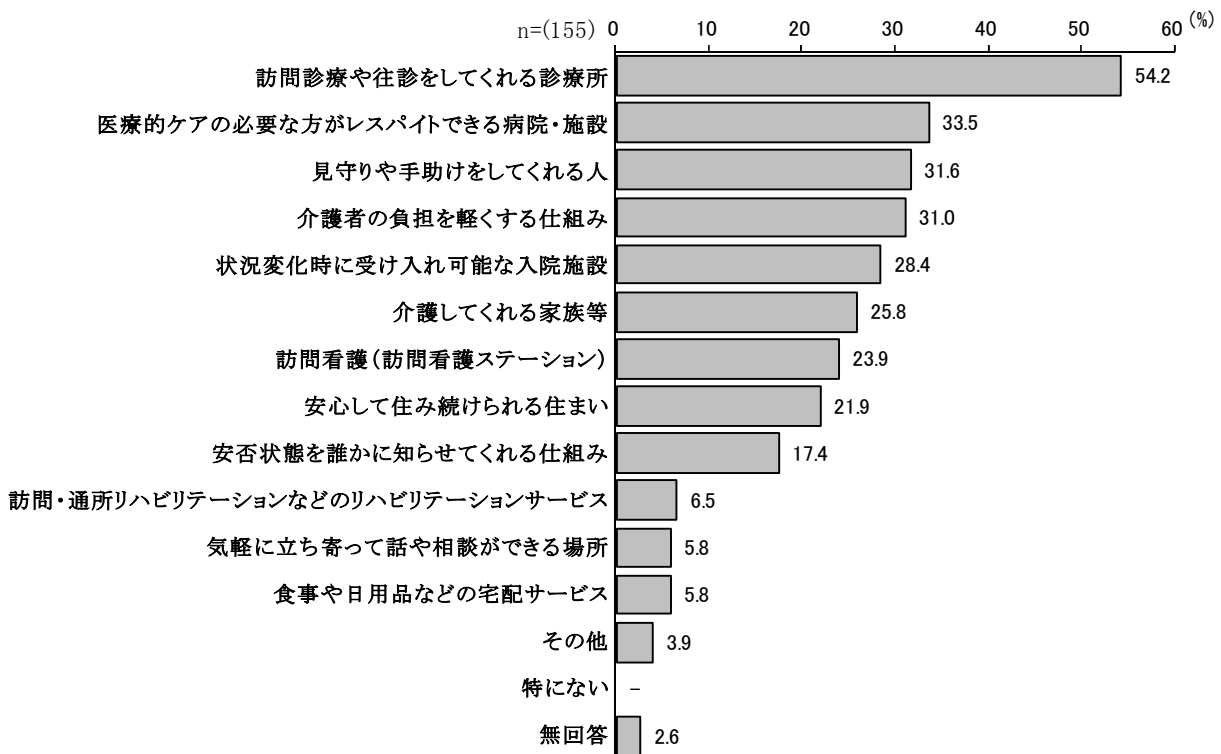
ケアプラン作成時に検討する介護保険以外の高齢者福祉サービスについてたずねたところ、「おむつ費用助成」(91.6%)が最も高く、次いで、「介護者リフレッシュ支援事業」(91.0%)、「一人暮らし認知症高齢者への生活支援サービス」(77.4%)、「配食サービス」(70.3%)、「高齢者見守りキーホルダー」(56.1%)の順となっている。

(8) 在宅高齢者に必要な支援について

① 高齢者が在宅で暮らし続けるために、特に重要だと思うもの

問24 介護や医療が必要になっても、高齢者が在宅で暮らし続けるために、特に重要だと思うものは何ですか。(あてはまるもの3つに〇)

<図表334> 高齢者が在宅で暮らし続けるために、特に重要だと思うもの(複数回答)



高齢者が在宅で暮らし続けるために、特に重要だと思うものについてたずねたところ、「訪問診療や往診をしてくれる診療所」(54.2%)が5割台半ば近くで最も高く、次いで、「医療的ケアが必要な方がレスパイトできる病院・施設」(33.5%)、「見守りや手助けをしてくれる人」(31.6%)の順となっている。

②在宅で暮らし続けるために、今後必要なサービス

問25 要介護者等（特に、一人暮らしの高齢者）が、在宅で暮らし続けるために、今後必要なサービスとして、どのようなものが考えられますか。ご自由にお書きください。

要介護者等（特に、一人暮らしの高齢者）が、在宅で暮らし続けるために、今後必要なサービスについてたずねたところ、回答の多かった内容は、「見守り・安否確認」「インフォーマルサービス」「生活支援」「リフレッシュサービス」の順であった。

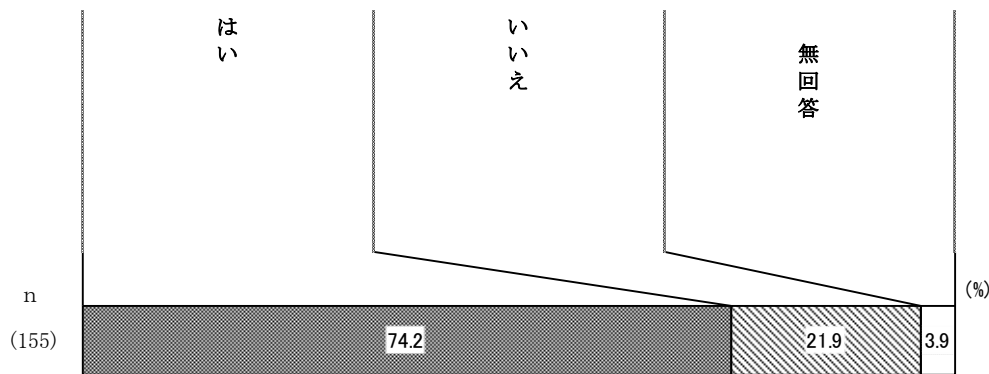
見守り・安否確認	インフォーマルサービス	生活支援	リフレッシュサービス	デイサービス・集いの場	移送・付き添い	訪問介護	在宅医療・服薬管理	相談支援体制	食事・配食サービス	金銭管理
28	11	11	7	6	5	5	5	5	2	2

(9) 認知症について

①認知症に関して相談のできる機関の有無

問26 あなたには、認知症に関して相談のできる機関がありますか。(○は1つ)

<図表335> 認知症に関して相談のできる機関の有無

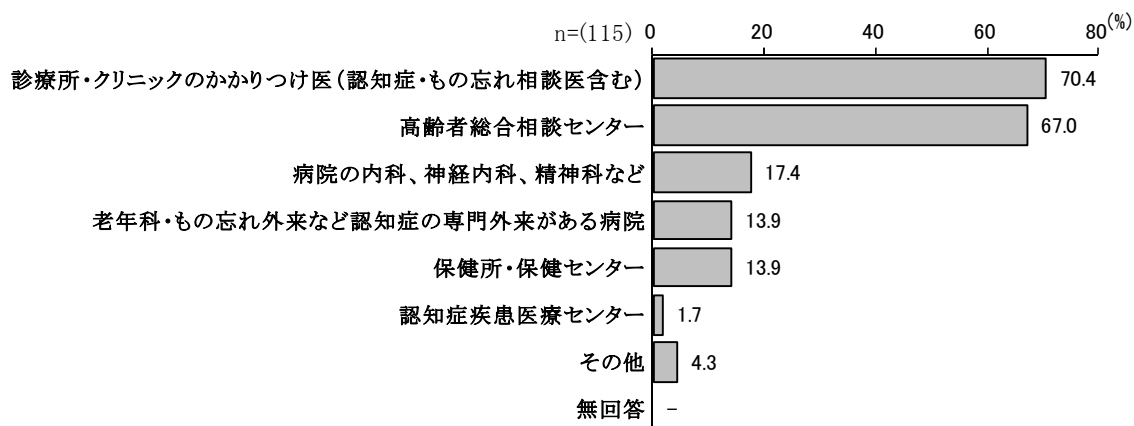


認知症に関して相談のできる機関の有無についてたずねたところ、「はい」(74.2%)が7割台半ば近くとなっている。

②認知症に関する相談先

問26-1 <<問26で「はい」を選んだ方のみお答えください>>
どちらに相談していますか。(あてはまるものすべてに○)

<図表336> 認知症に関する相談先(複数回答)



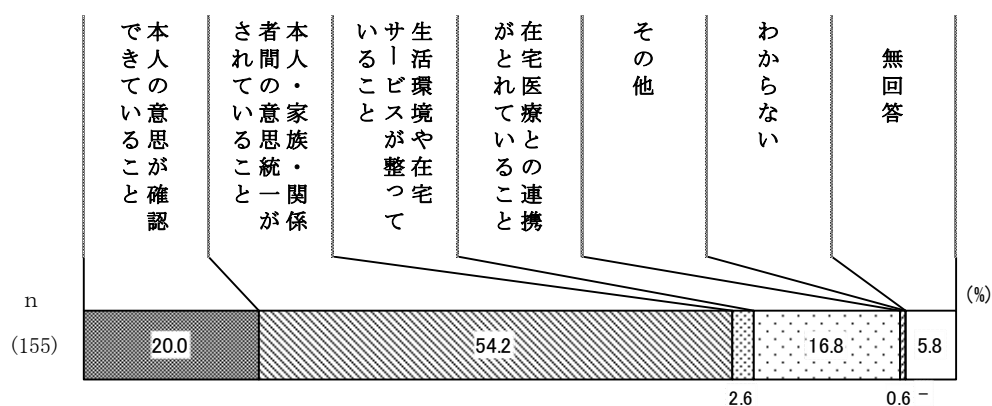
問26で「はい」と回答した人に認知症に関する相談先についてたずねたところ、「診療所・クリニックのかかりつけ医(認知症・もの忘れ相談医含む)」(70.4%)、「高齢者総合相談センター」(67.0%)がともに高くなっている。

(10) 在宅療養・看取りについて

①看取りをサポートする場合、特に欠かせないと思うこと

問27 あなたが看取りをサポートする側に立った場合、特に欠かせないと思うことは何ですか。(1つに○)

<図表337> 看取りをサポートする場合、特に欠かせないと思うこと

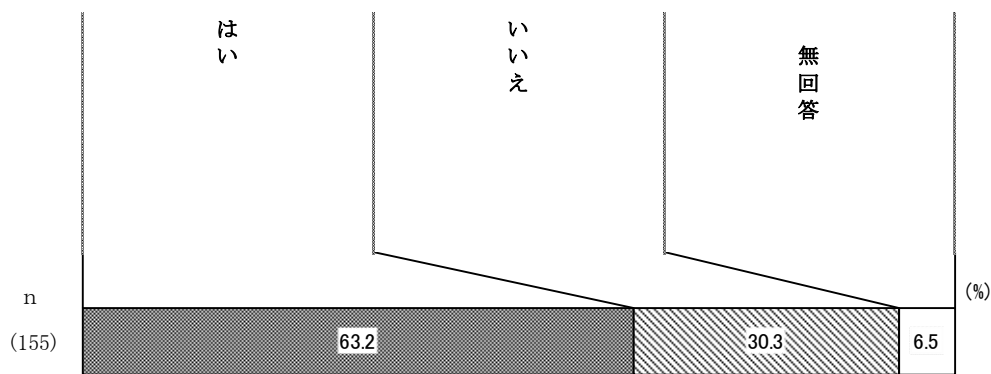


看取りをサポートする場合、特に欠かせないと思うことについてたずねたところ、「本人・家族・関係者間の意思統一がされていること」(54.2%)が5割台半ば近くで最も高く、次いで、「本人の意思が確認できていること」(20.0%)、「在宅医療との連携がとれていること」(16.8%)の順となっている。

②過去1年間で看取りをしたケースの有無及び回数

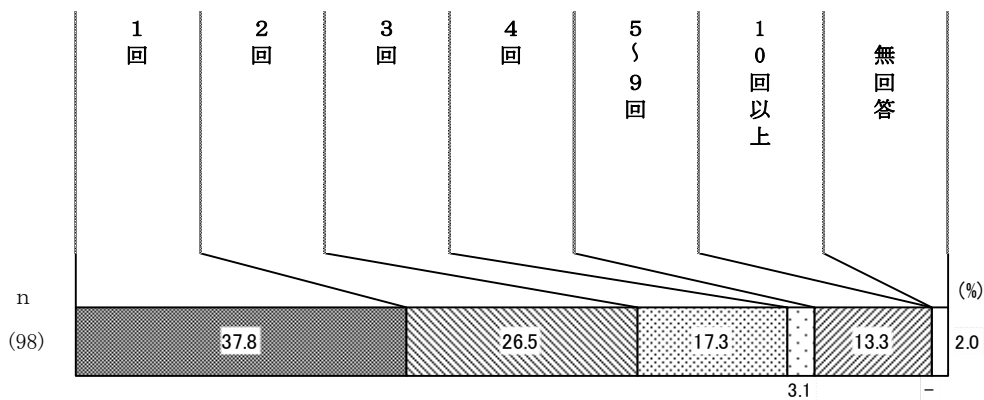
問28 過去1年間で、あなたは自宅で看取りをしたケースがありますか。なお、ある場合は、回数をご記入ください。(1つに〇)

<図表338> 過去1年間で看取りをしたケースの有無



看取りをしたケースがある場合

<図表339> 過去1年間で看取りをした回数



過去1年間で看取りをしたケースの有無についてたずねたところ、「はい」(63.2%)は6割台半ば近く、「いいえ」(30.3%)は約3割となっている。

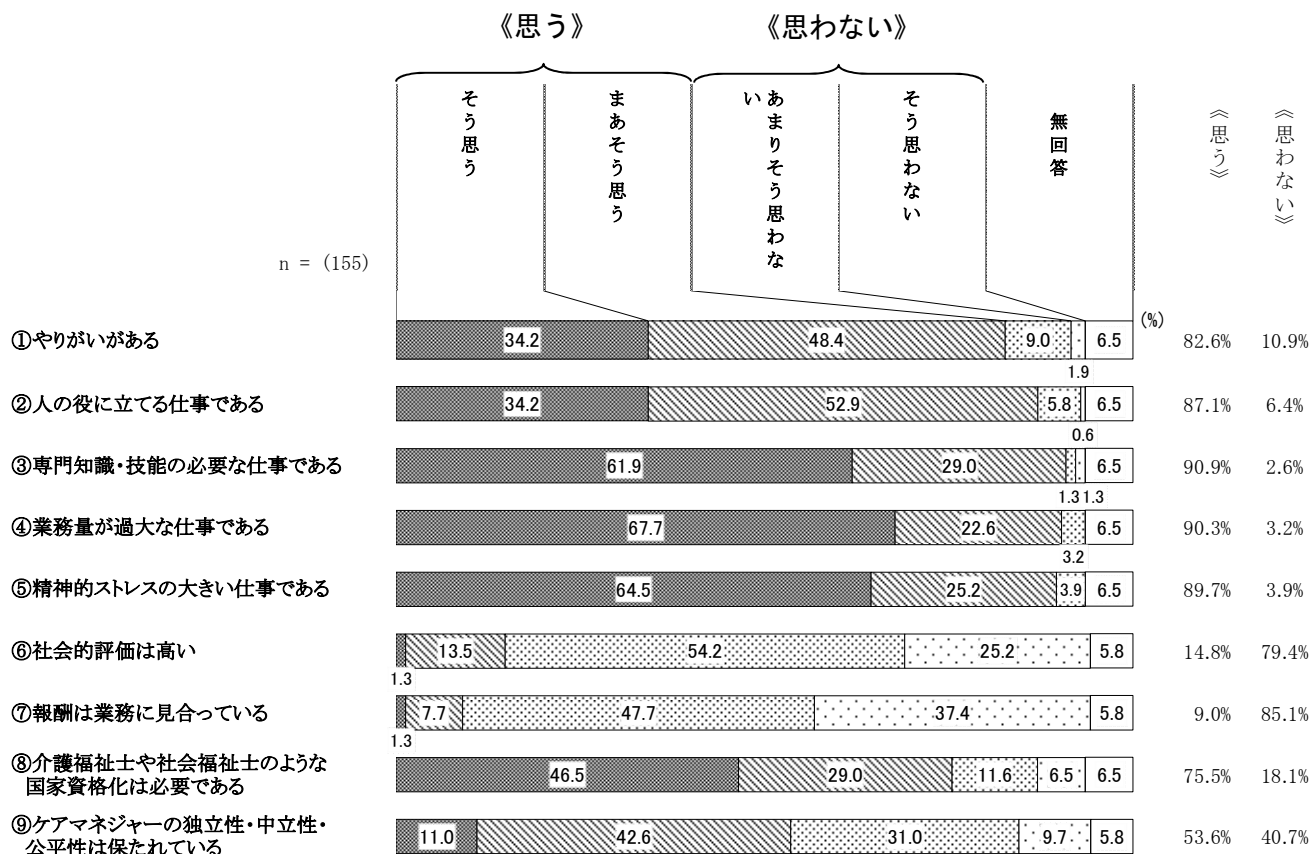
「はい」と回答した人に看取りをした回数についてたずねたところ、「1回」(37.8%)が3割台半ばを超えて最も高く、次いで、「2回」(26.5%)、「3回」(17.3%)の順となっている。

(11) ケアマネジャーの仕事について

①ケアマネジャーの仕事についての考え

問29 あなたは、ケアマネジャーの仕事について、どのようにお考えですか。
(それぞれ1つに〇)

<図表340> ケアマネジャーの仕事についての考え



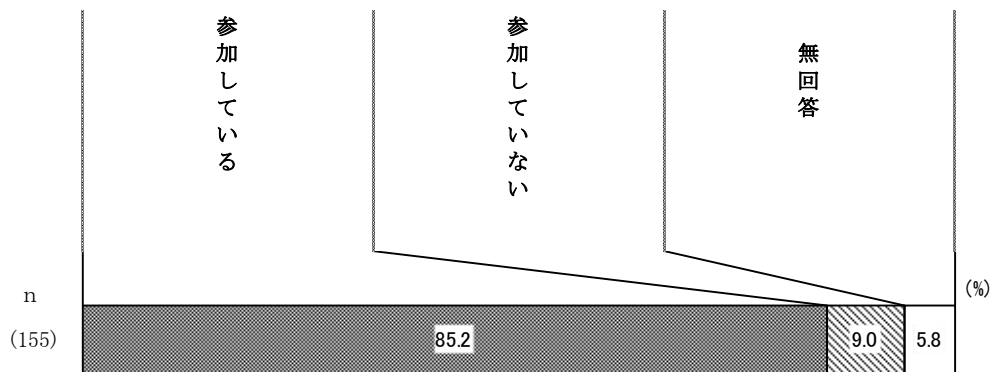
ケアマネジャーの仕事についてたずねたところ、《思う》(「《そう思う》」と「《まあそう思う》」の合計)は、【③専門知識・技能の必要な仕事である】(90.9%)が最も高く、次いで【④業務量が過大な仕事である】(90.3%)、【⑤精神的ストレスの大きい仕事である】(89.7%)の順となっている。一方、《思わない》(「《あまりそう思わない》」と「《そう思わない》」の合計)は、【⑦報酬は業務に見合っている】(85.1%)が最も高く、次いで【⑥社会的評価は高い】(79.4%)の順となっている。

(12) スキルアップについて

① 研修への参加状況

問30 あなたは、研修に参加していますか。(1つに○)

<図表341> 研修への参加状況

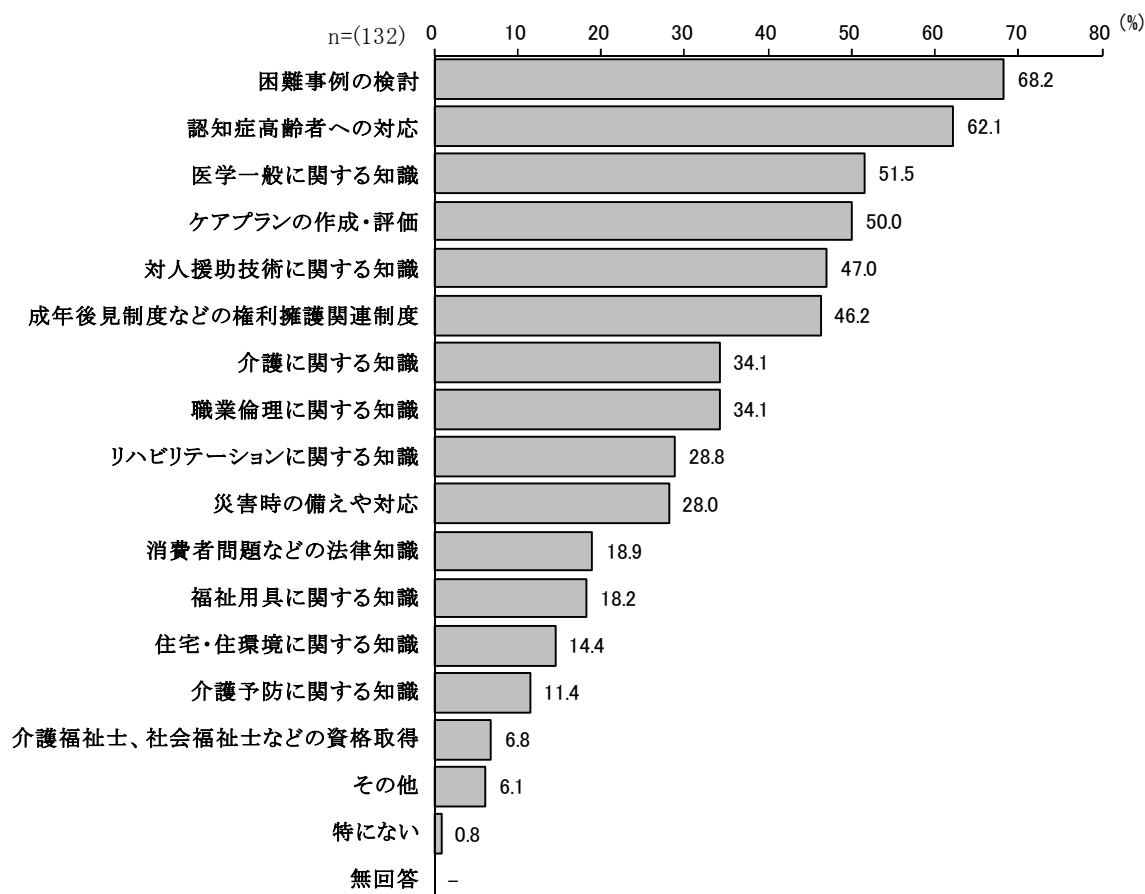


研修への参加状況についてたずねたところ、「参加している」(85.2%)は8割台半ばとなっている。

②スキルアップにつながる研修内容

問30-1 《問30で「参加している」を選んだ方のみお答えください》
 どのような研修内容が、あなたのスキルアップにつながりましたか。
 (あてはまるものすべてに○)

<図表342> スキルアップにつながる研修内容 (複数回答)



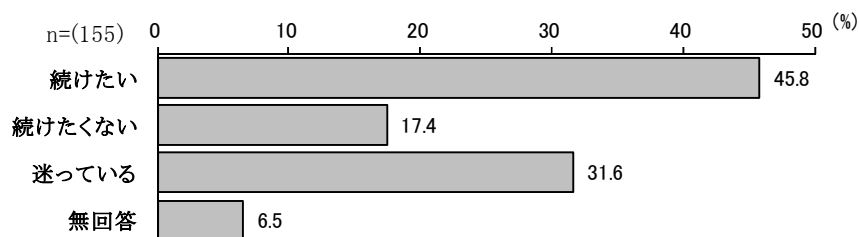
問30で「参加している」と回答した人にスキルアップにつながる研修内容についてたずねたところ、「困難事例の検討」(68.2%)が7割近くと最も高く、次いで、「認知症高齢者への対応」(62.1%)、「医学一般に関する知識」(51.5%)の順となっている。

(13) 今後の意向について

①ケアマネジャーの仕事の継続意思

問31 あなたは、これからもケアマネジャーを続けたいと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

<図表343> ケアマネジャーの仕事の継続意思 (複数回答)

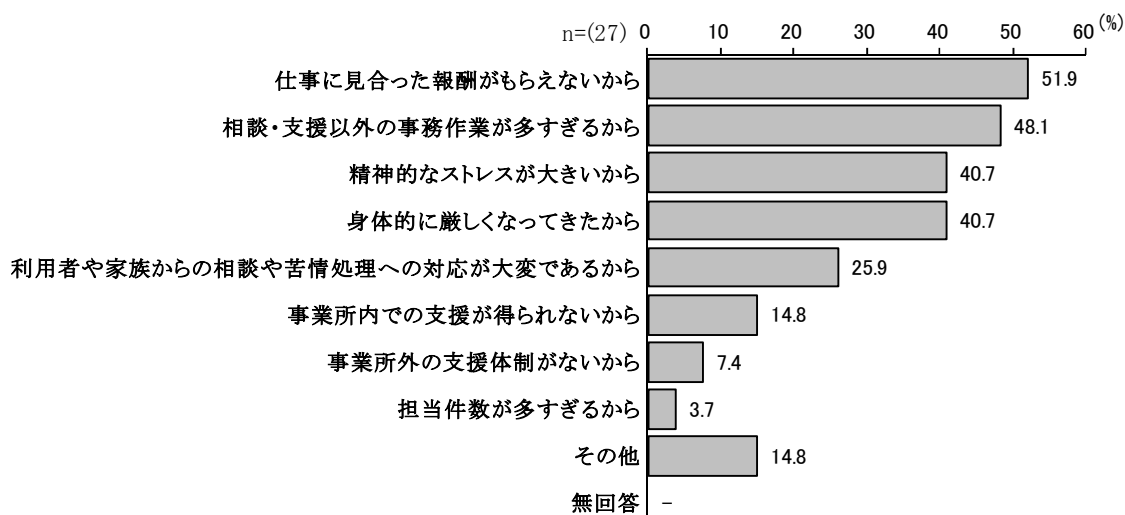


ケアマネジャーの仕事の継続意思についてたずねたところ、「続けたい」(45.8%)が4割台半ばとなっている。

②ケアマネジャーの仕事の続けたくない理由

問31-1 <<問31で「続けたくない」を選んだ方のみお答えください>>
ケアマネジャーを続けたくないと思う理由は、次のうちどれですか。
(あてはまるものすべてに○)

<図表344> ケアマネジャーの仕事の続けたくない理由 (複数回答)



※基数が少ないため、参考として記載するにとどめる。

③ケアマネジャーの仕事の継続について迷っている理由

問31-2 《問31で「迷っている」を選んだ方のみお答えください》
迷っている理由があればお聞かせください。

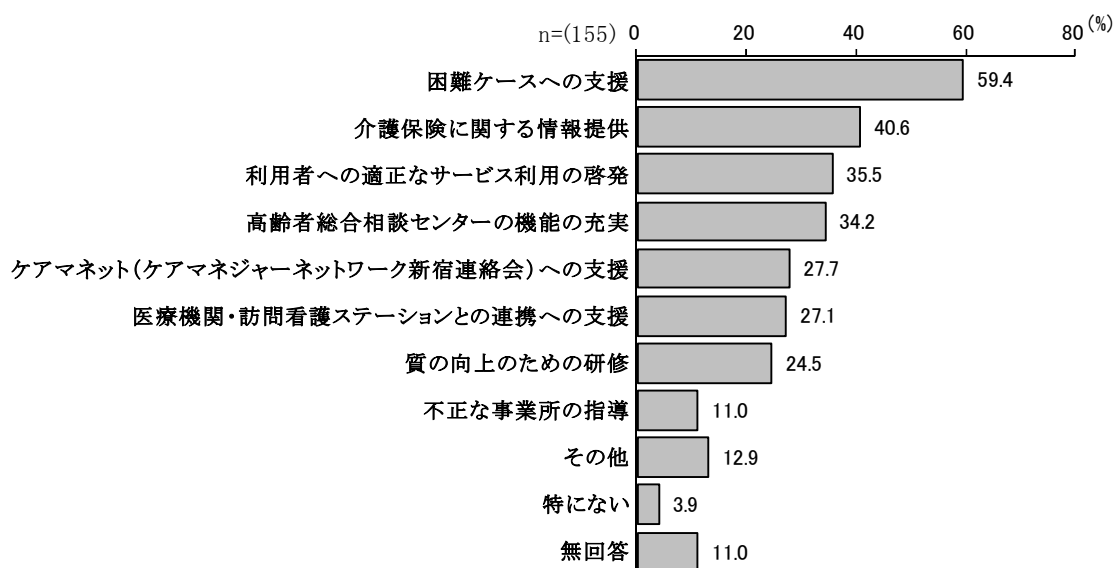
迷っている理由についてたずねたところ、体力的に限界を感じている、家族と事業所間に挟まれての対応に疲れてしまう、報酬が業務に見合っていない、研修などのしぼりが増えている、といった回答があげられた。

(14) 新宿区への要望について

①新宿区に対して望むこと

問32 ケアマネジャーの立場からみて、保険者である区に対して、何を望みますか。
(あてはまるものすべてに○)

<図表345> 新宿区に対して望むこと (複数回答)

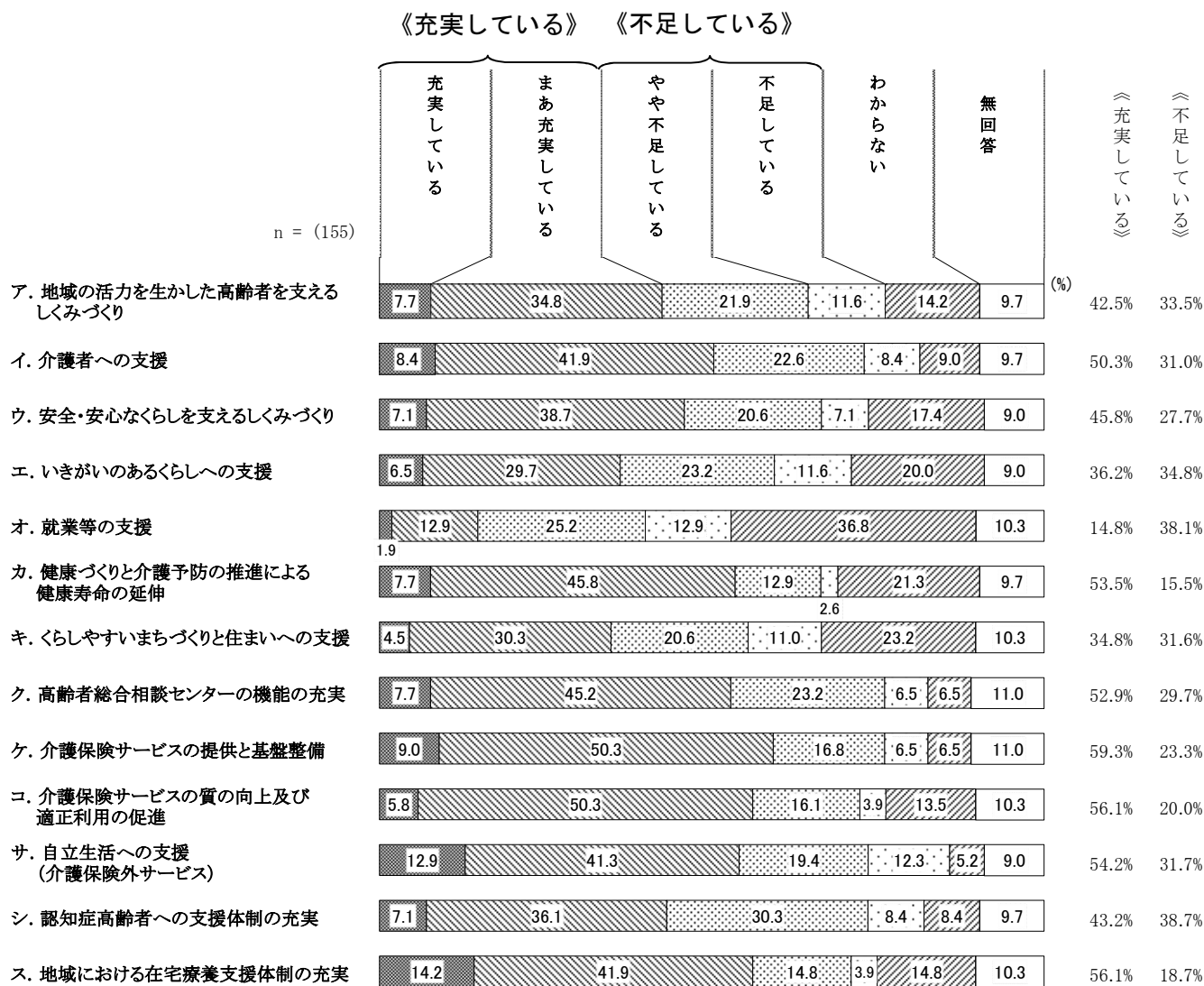


ケアマネジャーの立場から、新宿区に対して望むことについてたずねたところ、「困難ケースへの支援」(59.4%)が6割弱で最も高く、次いで、「介護保険に関する情報提供」(40.6%)、「利用者への適正なサービス利用の啓発」(35.5%)の順となっている。

②新宿区の高齢者支援の状況

問33 ケアマネジャーの立場からみて、区の高齢者支援の状況をどうお考えですか。
(それぞれ1つに○)

<図表346> 新宿区の高齢者支援の状況



ケアマネジャーの立場からみた、新宿区の高齢者支援の状況についてたずねたところ、「充実している」と「まあ充実している」をあわせた《充実している》は、【ケ. 介護保険サービスの提供と基盤整備】(59.3%)が6割弱で最も高く、次いで【コ. 介護保険サービスの質の向上及び適正利用の促進】及び【ス. 地域における在宅療養支援体制の充実】(ともに56.1%)、【サ. 自立生活への支援(介護保険外サービス)】(54.2%)の順となっている。一方、「やや不足している」と「不足している」をあわせた《不足している》は、【シ. 認知症高齢者への支援体制の充実】(38.7%)が4割近くで最も高く、次いで【オ. 就業等の支援】(38.1%)、【エ. いきがいのある暮らしへの支援】(34.8%)の順となっている。

③最も関わりの深い特別出張所管轄

問34 あなたが日頃、利用者や介護事業者等の関係機関と接している中で、かかわりの一番深い特別出張所管轄をお選びください。(1つに○)

<図表347> 最も関わりの深い特別出張所管轄

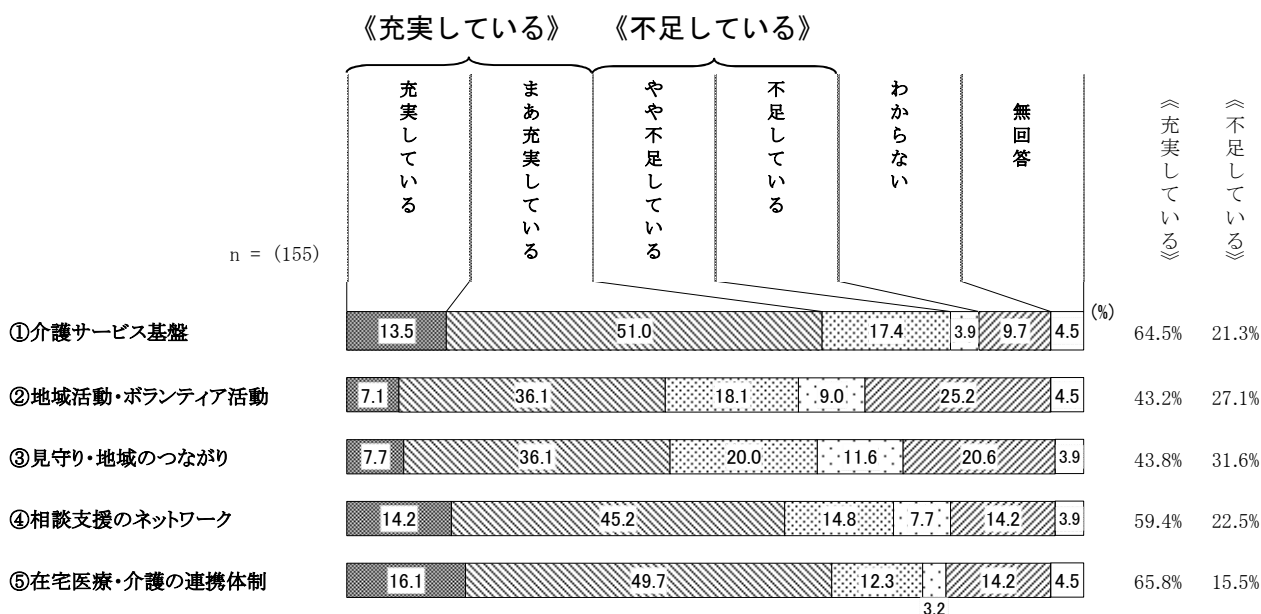
調査数 (件)	四谷	簗笥町	榎町	若松町	大久保	戸塚	落合第一	落合第二	柏木	角筈	無回答
155	14.2	11.6	7.1	7.1	16.1	15.5	7.1	7.1	7.7	1.3	5.2

最も関わりの深い特別出張所管轄についてたずねたところ、「大久保」(16.1%)が1割台半ばを超えて最も高く、次いで、「戸塚」(15.5%)、「四谷」(14.2%)の順となっている。

④管轄地域についての評価

問34-1 <<問34で選んだ地域についてお答えください>>
当該の管轄地域について、どのように思われますか。(それぞれ1つに○)

<図表348> 管轄地域についての評価



管轄地域についての評価をたずねたところ、「充実している」と「まあ充実している」をあわせた《充実している》は、【⑤在宅医療・介護の連携体制】(65.8%)が6割台半ばで最も高く、次いで【①介護サービス基盤】(64.5%)、【④相談支援のネットワーク】(59.4%)の順となっている。

⑤高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険についての要望・意見

問35 在宅介護に関して気になっている点など、ご自由にお書きください。

在宅介護に関して気になっている点などについてたずねたところ、以下のような回答があった。
各事項について、回答の中からいくつかの意見を示す。

【介護人材に関すること】

- ・ヘルパーの人手不足を感じます。若い方が介護に関わりたいと思うような仕事になると良いと思います。
- ・ホームヘルパーの不足で土曜、日曜の時間に調整が難しくなっている。

【障害者支援に関すること】

- ・障害や児童福祉との連携を充実させることが、地域全体が暮らしやすさを感じられるようになるかと考えており、状況によって情報を共有できるよう、個人情報の有効活用を行えるように、条例等で変えることができればと思います。

【家族介護に関すること】

- ・「自立支援」という趣旨とは正反対に、家族が自らもケアマネを頼ってきて、それをそのまま受け入れてしまうと逆に「依存支援」になってしまいかねない。

【認知症に関すること】

- ・家族が全くいない認知症利用者宅へ届いた大切な公的書類（健康保険証等）を不要なチラシの中から探し出したり、入院時に入院に必要な用品を揃えているのは担当ケアマネではないでしょうか？ケアマネの存在は核家族が進む中でかなり役に立っていると思います。「これは業務範囲外だ！」と無視できない現実がいくらでもあります。

【医療と介護の連携に関すること】

- ・介護者のレスパイトが思うようにできないので、ショートステイができる施設数が増えることや、医療的なサポートが必要な人が使いやすい、地域包括ケア病棟になると良いと思う。